



尾張名所圖會 前編

五

ル 4
4597
5





門外
號 4597
卷 5.

尾張名所圖會卷之五

目錄 愛智郡



- | | | | |
|---------|--------------|--------|-------|
| 木下勝俊 | 八幡社 | 油江天神社 | 常泉寺 |
| 定徳寺 | 秀吉公お抄の方と婚禮の圖 | 加藤清正宅址 | 木下家定 |
| 萱津東宿 | 妙行寺 | 覺圓寺 | 土江天神 |
| 東籬園 | 日比津勝定 | 柳街道 | 凌雲寺 |
| 杉原長房 | 米野村 | 長良村 | 願成寺 |
| 吉田守氏宅址 | 高塚 | 七社明神社 | 隱齋屋敷 |
| 中郷下司行直 | 願真寺 | 四女子村 | 同田祭の圖 |
| 前大納言利家公 | 常樂寺 | 高畠村 | 一揚庄 |
| 高牟神社 | 高野社 | 下一色城址 | 荒子觀音寺 |
| | 芳珠寺 | 物部神社 | 一色川 |
| | | | 物部郷 |

早稲田大學圖書館
昭和 35. 1. 28
藏書

實敏僧都出生の地	太郎塚	川原神社	檀溪
香積院	八事村	八事興正寺	般若臺の園
寄木天道社	音聞山	中根山	同萩見の園
観音寺	島田古城	東山の春興	島田地藏寺
熊坂鹿跡	毛替地藏靈驗の園	猫洞池	名産松茸
上社古城	柴田勝家	蓬萊谷	桃巖寺
末森古城	猪子石	平針驛	牧大池
月見坂の園	蓮教寺	竜淵寺	平針古城
針名神社	赤池村	白山社	梅森古城
寶泉寺	磨砂	岩崎城址	竹野山
岩崎瀧	妙仙寺	佛ヶ根	川尻肥後守宅址
景行天皇社	富士社	富士権現社	長湫古戰場
岩作村	石作神社		安昌寺

御床机石	首塚	岩木	山口村
山口神社	本泉寺	物見岩	海上の洞
汐見坂山	竜谷寺	清安寺	祐福寺
御器所村	龍興寺	八幡社	御所屋敷
天瑞寺大政所	七本松	佐久間盛政宅址	同勝之
澤菴漬	善昌寺	高田村	海上寺
牛卷潭	高田重家旧宅	大喜古城	大喜寺
地藏塚	地藏池	津賀田社	龍泉寺
師長公謫居地	師高塚	劍塚	浴地藏
仙人塚	黄龍寺	白毫寺	佐久間信盛城址
熊野社	蛇毒神社	愛知塚	戸部豊政
星宮	伊奈突智翁社	神輿塚	星崎占城
星崎	笠覆寺	笠寺縁起の園	天白川

徳願塚	山口盛幸城址	成田氏城址	櫻村
櫻田	野並里	古鳴海	鳴海瀉古覽
上野	娘ヶ茶屋	鳴海山	片葉葎
融傳清水	鳴海驛	成海神社	八幡宮
如意寺	花井	根古屋城址	万福寺
淨泉寺	瑞泉寺	成海長者宅址	丹下若
中嶋若	善照寺若	扇川	二位殿塚
細根山	桶狭間古戰場	同合戦の園	千人塚
田樂ヶ窪	両村古驛	二村山	子安清水
沓掛城址	鎌倉古道	境川舊渡	

中村

和名抄に愛智郡中村と見え文和三年四月廿三日熱田御神領
 目録に愛智郡上中村畠二十二町八反云々と見え

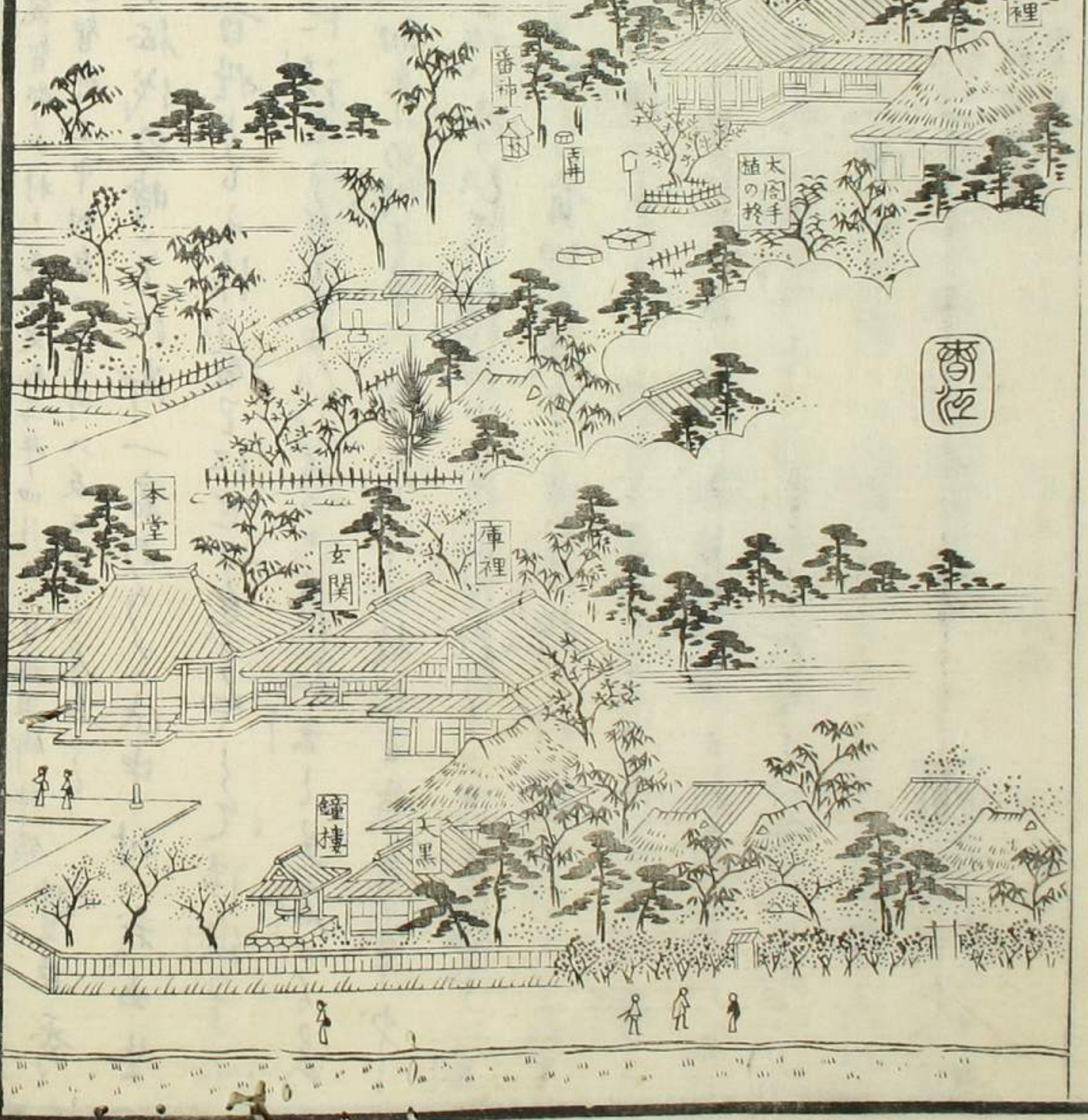
豊臣秀

吉公小田原征伐の時々に御一宿ありては中村ハ我出生
 此地をば百姓どもよ作り取らば世に世にやとて清供り小
 早川隆景に決せさせをひけるがに仁王と吳名はるる
 と有(一)我幼年の時々に草と刈り彼仁王我より年少
 長しりし所いさひては強つるを叩く其を恨今に忘
 ると仁王呼ばし首切て後とて鬼と仰ぐれば仁王いまだ生
 きてありしも偽りてとて病死し子もなきなり小子川登り
 けとばさうばとてせよとて中村一帯百姓小下されたる其のち
 朝鮮征伐肥前の名護屋に涉を陣の時亦村に百姓どもハ
 涉伺にとありしに中村乃者ハ一人もあらずなりとて怒り給ひ
 て又石とられけるなり祖父若治小見えなり

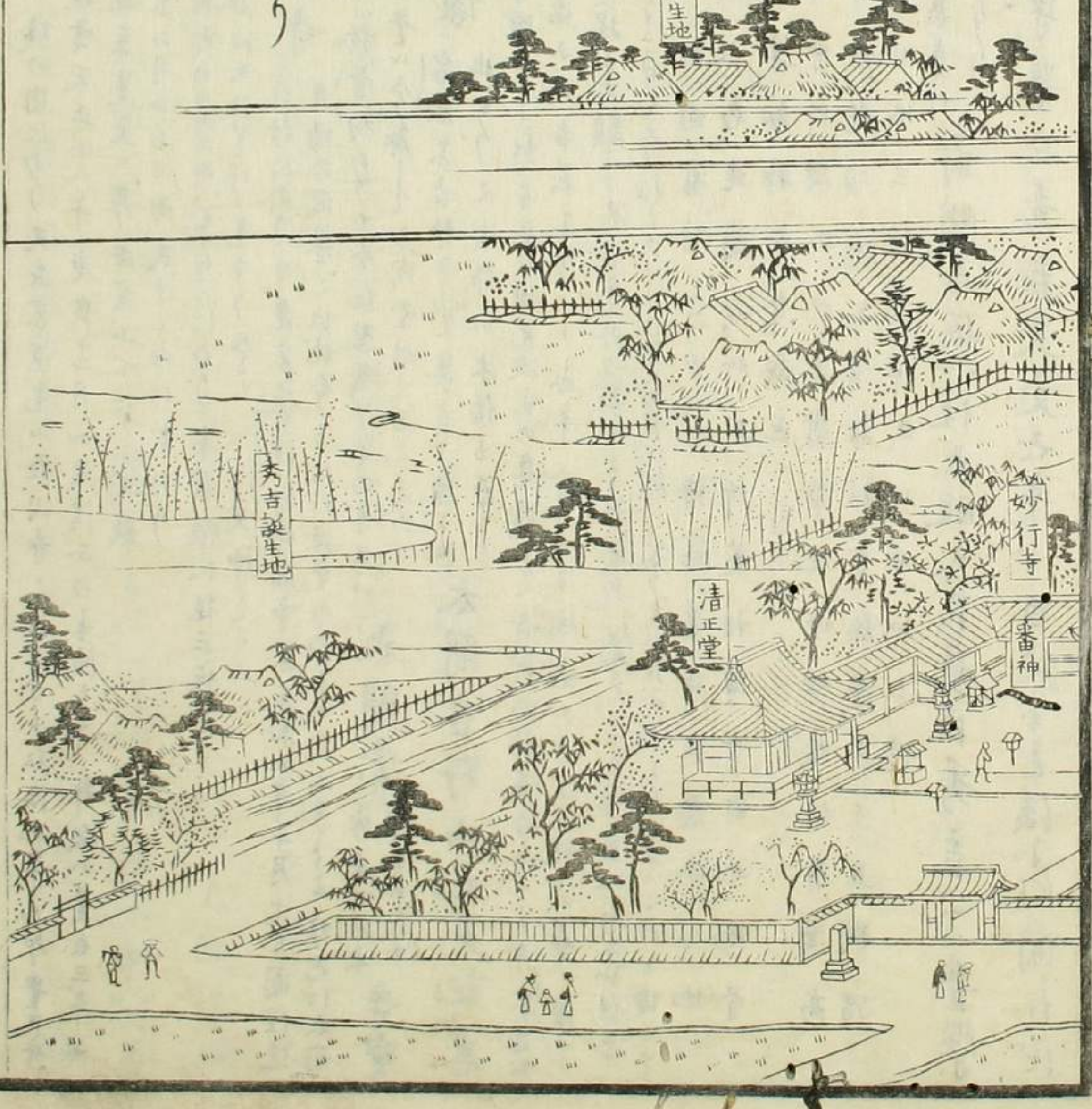
一帯の所を永代百姓に
 下されしにあり

後撰傳記にハ清正
 史奉にありて中村

常泉寺
 妙行寺
 大閤屋敷
 清正屋敷
 物氏卿
 絶海樓船農
 大明寧知此
 地長柴荆干
 山風雨時
 思只作當年
 叱咤声
 中山梅軒
 掌中一握萬山河
 又老當年顏色多



豊沛空留数弓地
 大風歌震野春歌
 石原重好
 滝つとに
 かねらん
 経乃
 いまわし
 ちのち
 かゝふまてし
 歩ゆし
 歩ゆし



八幡社 上中村の地の内にあり天皇家医光山長岡寺これとす弘治元年乙卯豊臣秀吉これ造営天正十八年庚寅三月如後清正の事改より拜殿ハ慶長三年戊戌清正の母の建立寛文二年壬寅山下市正氏改

又重修せり例永正月十七日郷民中々の式あり

油江天神社 日村の東三町にあり本國帳に延三任油江天神とあり

太閤山常泉寺 日村にあり日蓮宗菅津村妙勝寺末元和九年十月十日圓位院日通の願基此地秀吉公此誕生の地と云ふ山号とて境内に太閤

寺寶 容貌古雅して集古十種も出せり又古作の本像もあり

秀吉公画像 天野信景此寄附永正元年新源光政主の真蹟とて奇代の珍書なり

扁額 太閤堂に掲ぐ大額として百年外のおうと治承共に見ゆ

尾城 西南有里日中村博陸豊臣公懸弧之地也後人為建蘭菴於其所羨相傳寺前之狗骨

尋著 英雄曾所躑孤於翁鬱帶風煙襟懷何屑漢高

大息寵自無楚項偏不學誰知軍旅事文王且問渭濱賢并吞日域三韓國神武此非地上傳

太閤屋敷 常泉寺にあり前關白從一位太政大臣豊臣秀吉公ハ豊隆小羽柴花前守豊臣秀吉天文六年丁酉に世を後に關白に

昇^の尾張國豊臣中村とやとて民家^の五六十斗

アヤらん郷れやの民の子うとハ父母の名も誰いあらん族

なごもあつらりと記し難波創業録にも秀吉ハ尾張國豊臣

中村の人なり其本姓と不知幼名ハ日吉と云母有て父と云原

母着に日輪とのいふん天文六丁酉の歳出生と云松永貞

徳^の戴恩記に秀吉公いそ我尾張の民間よりおれ草

すハあつれども象もさひはゆあ原但我母着き時肉裏れ

みづ^の所の下女さうしうゆり玉躰にらつきをりし

わり其夜れ後にいくふ万の津板若伊勢より播磨とさ

すさるもさう天上と飛りて日と懐胎^のぬきとつと

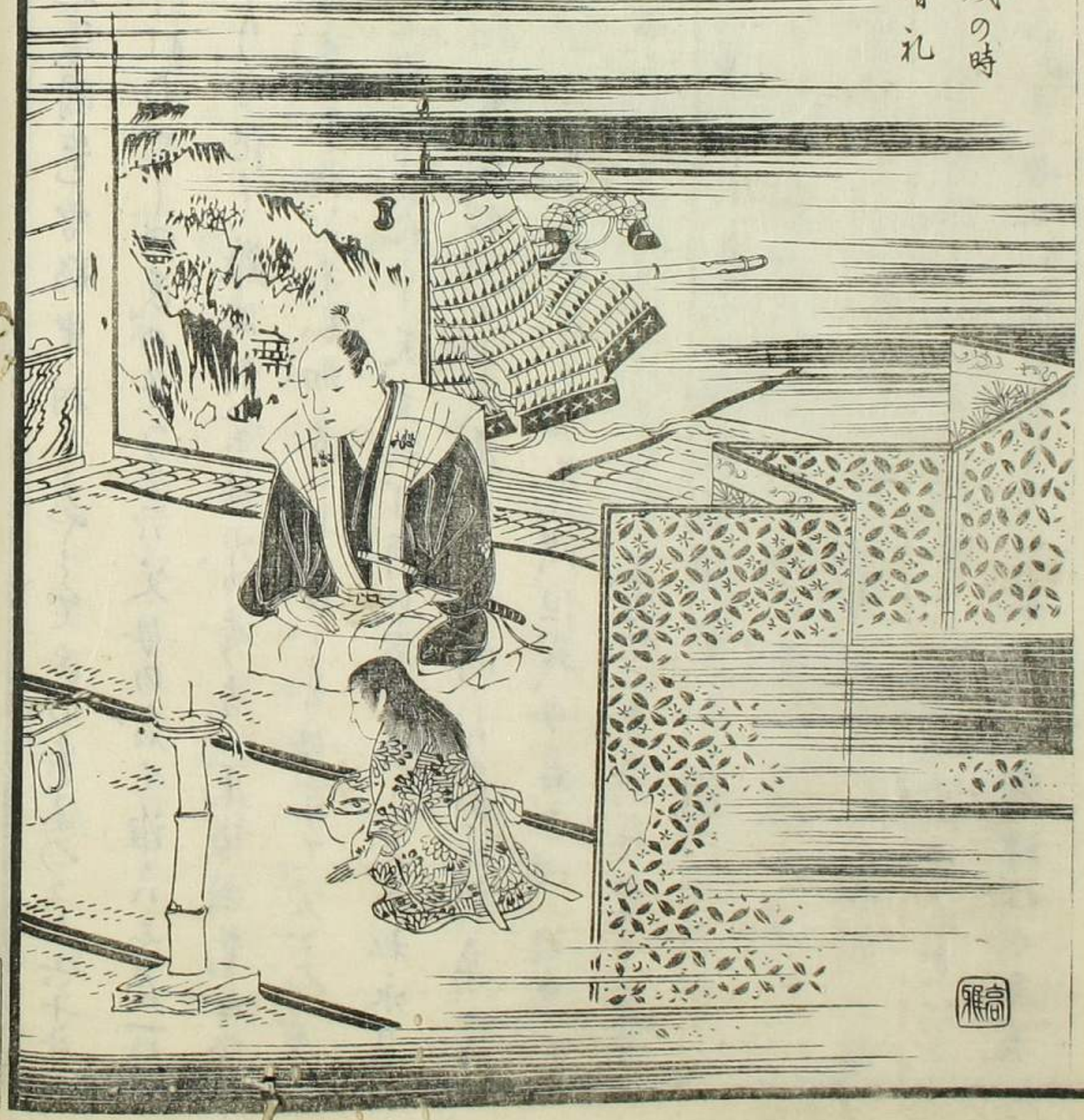
見^るはとの時の帝 後奈良天皇此流うらん太閤記祖

父あはれとさめ実派にも父ハ信長と此同納流^の原中村の

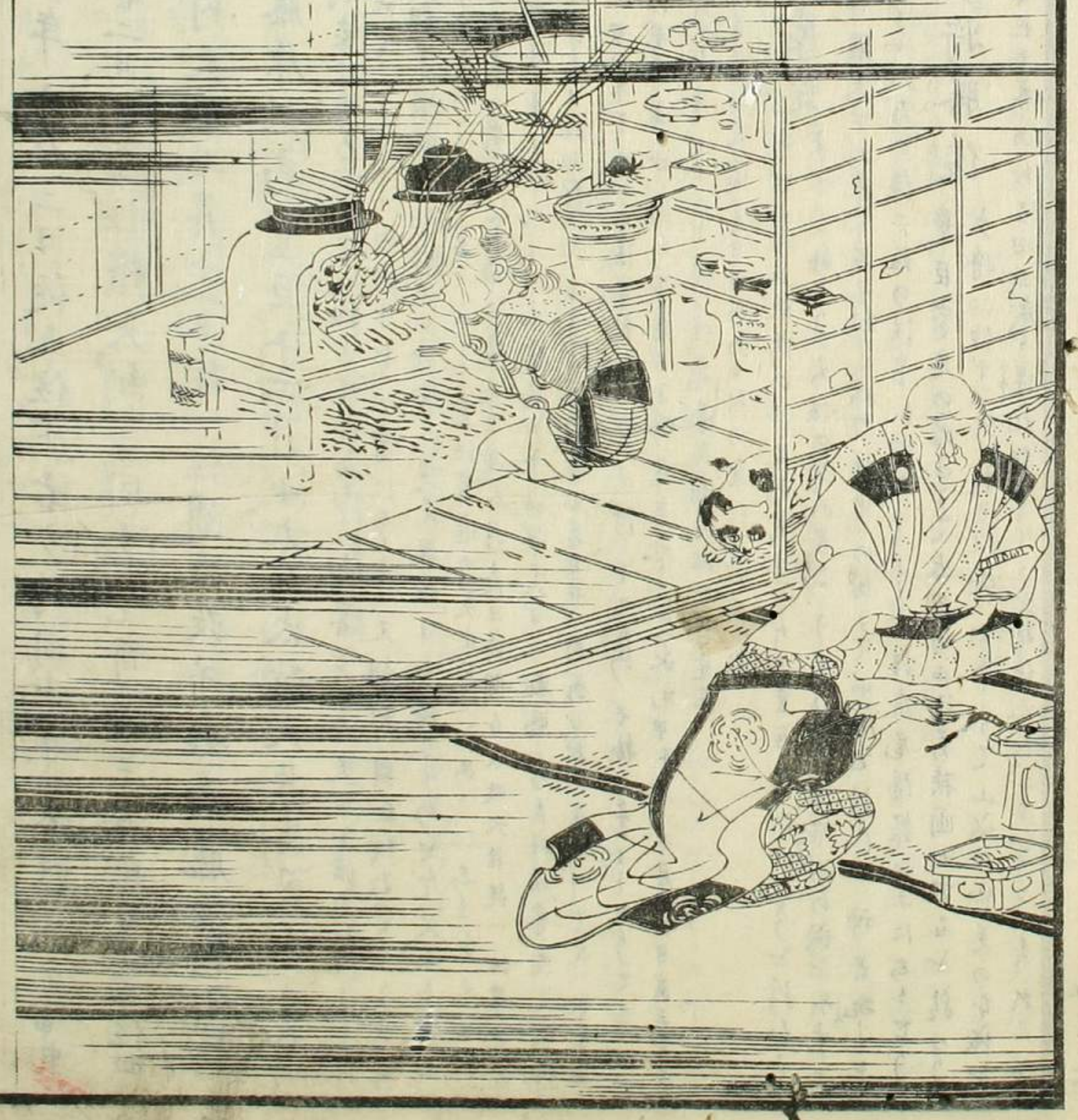
他人さうしうつと母れ後の夫なりと知べし公卿補任小早秀

秀吉公負賤の時
お孫の方と婚礼
の図

組又お清に涉野
又清の女房に決
まけりハ小竹ハ利
發者なり我輩
中へ嫁お孫と
をすべしと決り
けとバ女房ハ小
竹がぬにハ伯母
うり一尾物と
とて夫婦や
とりり嫁り
北政所とせりハ



はお孫のまゝ
お孫 夜言地
時の上着ハ信
長子左衛門長と
あさけ くれ
苗字ハ藤原
の木終のまゝ
うりこれと又
お孫とてつぎ
今世婚礼
のまゝに
とせりり中
歩るお孫
とせりり小竹
とて秀吉と
幼名なり



鐘下旬四日通とありは日通寺の像 秀吉公書簡 細川晴元書簡 天

集古十種も載せて昔く人の知る如く 猫釜 古瀬戸茶入 兜の前楯 片鎌鐘已上四種ハかま 鰐口大永五年乙酉

法寺常什 曼陀羅元和元年孟を中僧日通の筆日通ハ朝鮮國の王子として清正朝

と流りて 曼陀羅鮮征伐の時彼地にて擡げしは是ゆりて生をの活出家一世に

名に日通と云ひて ば介救多のれどあらと畧也

清正像贊 勇若 魁虎 妙騁 兵機 百戦 百勝 受封 于肥 取韓 入哈

迅疾 如飛 緋甲 梨勒 儼然 其威 生擒 王子 奏凱 還歸

明人 落膽 声溢 九圍 仲任

加藤肥後守清正宅常泉寺北西の方に舊地あり 肥後守清正ハ大織冠の末孫

中納言忠家十一代の裔孫加藤四郎頼方當村に任ぜし其

裔孫源正左衛門清忠の二男なりて永禄五年六月廿四日亥

に之誕せし幼名虎之助れ以り力量智勇拔羣少

て志も太閤の外戚の親之にり志津ヶ嶽先鋒の名

より登庸せしと天正十三年の秋叙爵し主計政に任じ

同十六年同五月肥後國二十万石と賜りて是又五年涉一統

の後肥後國一系と賜り五十一万五千石と賜り然本城を

とて英名と海内にも之り凡は人の生質廉直して智

勇獨り教養の我切武畧れなれ多き中。文祿のち

は朝鮮征伐の先陣として彼地は濱り太子及び后妃從衛

と屬し比類なき勇威とありしと異國一對して其に我

日本後代を其面目なり事ハ徵略録兩朝平壤録征韓偉畧及び極

正意ハ朝鮮征伐記等其法其源と云々

上下の時ハ百姓も新しき桶小候と入る人くれ前ハ並亮

若もに海通端に之を並居けは老人ハ切ら違者

とて之をのち宜ひ若軍々の百姓には是ハ誰の子彼ハ誰が

孫とともくは詞をけ給ひてらるるおききの者も念比

小仰られ浪子一枚毎度佳例として下り給ひり是ハ百姓

も感涙と流してゆりるるんえり上年秦陰浪石牌とこの地

建て其行状と彫らる其文云

集慶山凌雲寺

福地村にあり 隆濟宗京師妙心寺末天文五年 高須賀村の滋之
津田豊海は法名凌雲寺殿春翁凌公此創建也南冥紹化
和尚と開山と云 即凌雲寺殿此位牌あり又信長は幼年此寺にあり
子男ありて 一ひひ 信長は幼年の双紙無ねと云 今にのこまり 本尊 釈
の木

東宿

同村北枝にありてむらさき 菅津沢のひがし宿ありて菅津の
宿ありてむらさき川の西にありて今ハ赤坂郡にけり

阿弥陀堂 觀音堂 地藏堂

境内に

むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて
むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて
むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて
むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて

花のねみまもあぬ市への流るるてゆき家つと

米野村

今上下二村あり 文和三年四月廿三日 櫻田神領目録に愛智郡 薦野郷
とありて古名ありてとありてとありてとありてとありてとありて

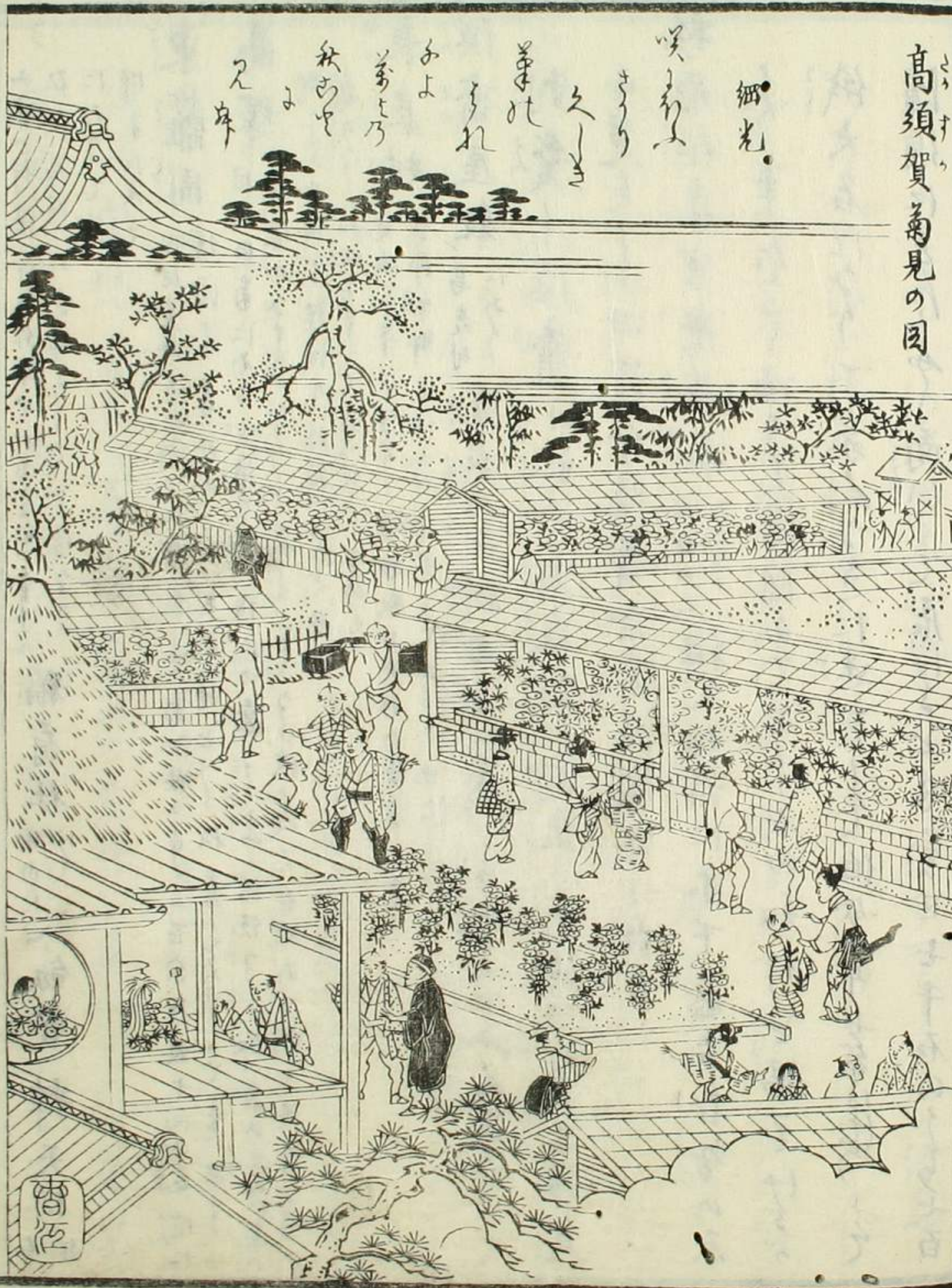
柳街道

むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて
むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて
むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて
むらさきの市の日にはむらさきの人ありて里もひくもりにありて

高須賀山願成就寺

ら次賀村にあり 天台宗野田村密院末今願成就寺と
通稱して就字と者くあるハ 聖武天皇の勅願 天平
四年 行基井の開基 天永年中 信盛海の中興也 古刹あり 名古屋真福寺
所産の古写本 理趣釈口决抄の真書に 於尾及愛智郡 作郷高須賀大乗坊
書寫了貞治三年四月十四日とあるハ 大乗坊ハ此寺の旧号なり 本尊 茶
りて寺にありて 信長は幼年の雙紙無ねと云 今にのこまり 本尊 釈

高須賀菊見の園



如來八行基井の作堂中此る全別童子ハ
弘法大師の志作りて是像なり 稻荷社 坊内に
八剱官 辨天祠 坊外
にありて某
所をに居す

東籬園

同村基井の例うる農家として菊と植ふる三百余種數十間の花壇に
植液す暮秋のころ在り人地とつねに羣をとりて賞讃す

高塚

日村の南にある古墳なり 誰人の墓なるや傳説あり 御名の言及なきハ
言塚のなまりなりと云ふ定まりなきは白砂あり地と波々たるハ
例して大須賀横須賀梅原など也

長良村

貞治三年に官せし理趣教口決抄の奥書に愛
智郡竹野と云ふハ此里ありてふるき地名なり

隱齋屋敷

鳥走村 尾呂の士副田与佐吉成といふ人ありて
刺髪し隱齋と稱し馬森村に閑居して終りると陸虎

小見えし旧跡今隱齋屋敷富塚と稱す

杉原伯耆守平長房

同村の人 祖父物活に木下藤吉各務の取

より事ありしゆり美濃國めて七千石の知行と賜りけるが
俄大名にたりて家人なきに迷惑して伯母年七命を絶して
清須にまんと申す南いして居けると云ふ事七千石のうら七百

石とせ末く河經大才に成りとも十ふ一とせん約束
たりしを好小杉系伯耆と申けるハ此七命を絶つるゆりなりと
あるゆりされも其約束はなほひて太閤天下一統といひゆり
るが但馬國豊岡の城三万石と領り慶長五年の乱も
長房 御當家に志と通じり本依りあり安法なり
岩塚驛 東海道佐倉より豊田駅より此馬つぎ之文和三年豊田神
領目録に愛智郡岩基郷とありハ此より基ハ墓の深字之
白湯集 朝發名護屋 大田錦城
日輝 金尾躍金龍 回顧城頭千樹 松樓 檜高聲 御嶽
雪依 稀柱 望蓮 峯
東行活説
七社明神社 岩塚村 本社 日本武 攝社 八剱宮 高座宮 大福田祠
田の七神と祀るに七社明神と稱す 末社 若宮八幡祠 天神祠 大日祠
白山祠 當社 日本武尊五十音山の意神と退治せんと豊田よ
り彼山より入り道に所を暫く憩ひ終りて旧地ありて其時



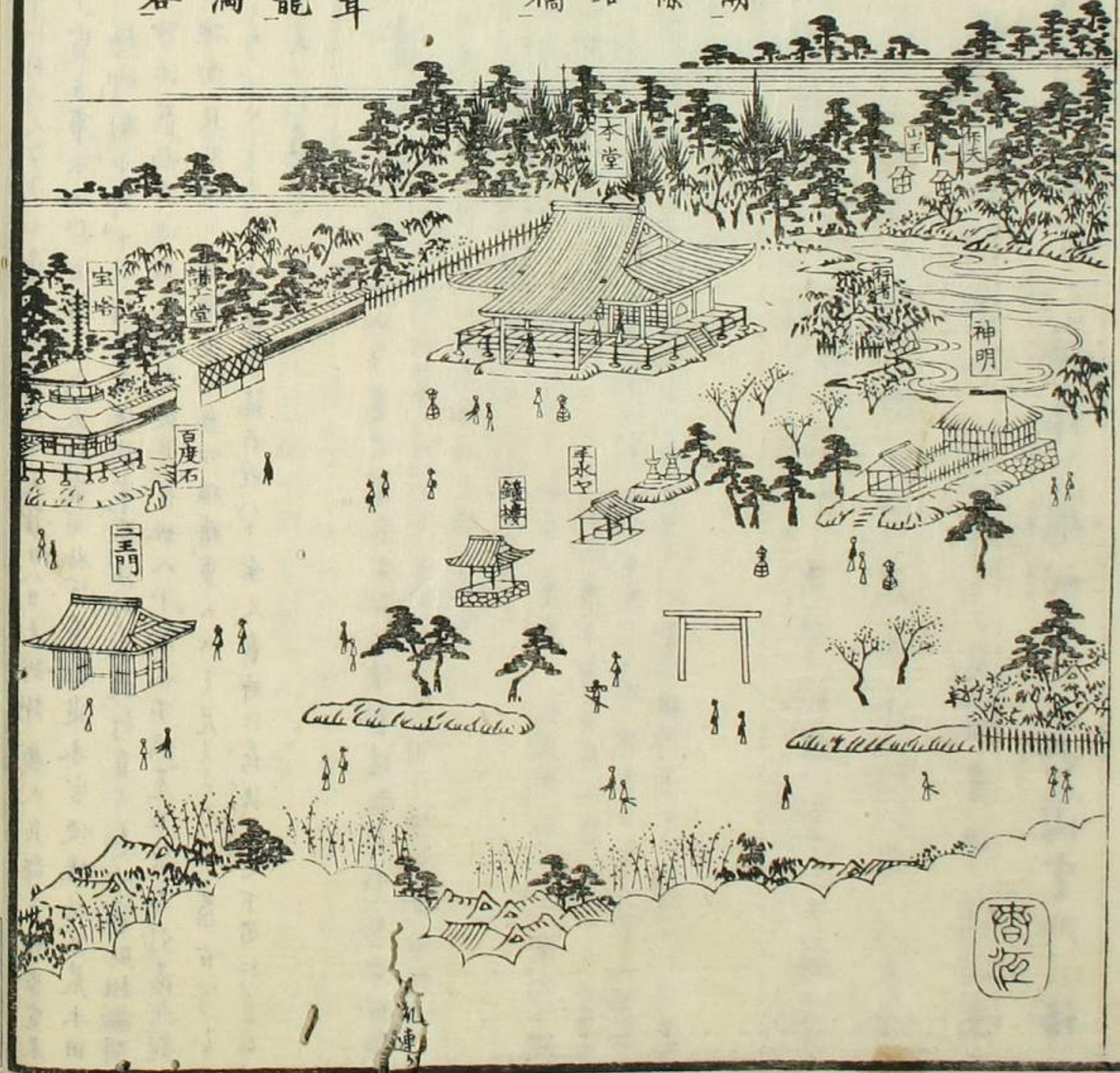
荒子
觀音寺

津金胤臣

春雨聲如接海潮
觀音實劍一蕭條
紫藤為架天台路
疑是雲霞垂石橋

紀世德

藤花深架紫蒙茸
池上蟠根起卧龍
香刹看來瑞雲滿
補陀高興絕塵容



溝口藍光

縷絡蔓延雨露饒夏
初春晚景堪描此中
知有來迎聖統屋紫
雲凝不消

弘子

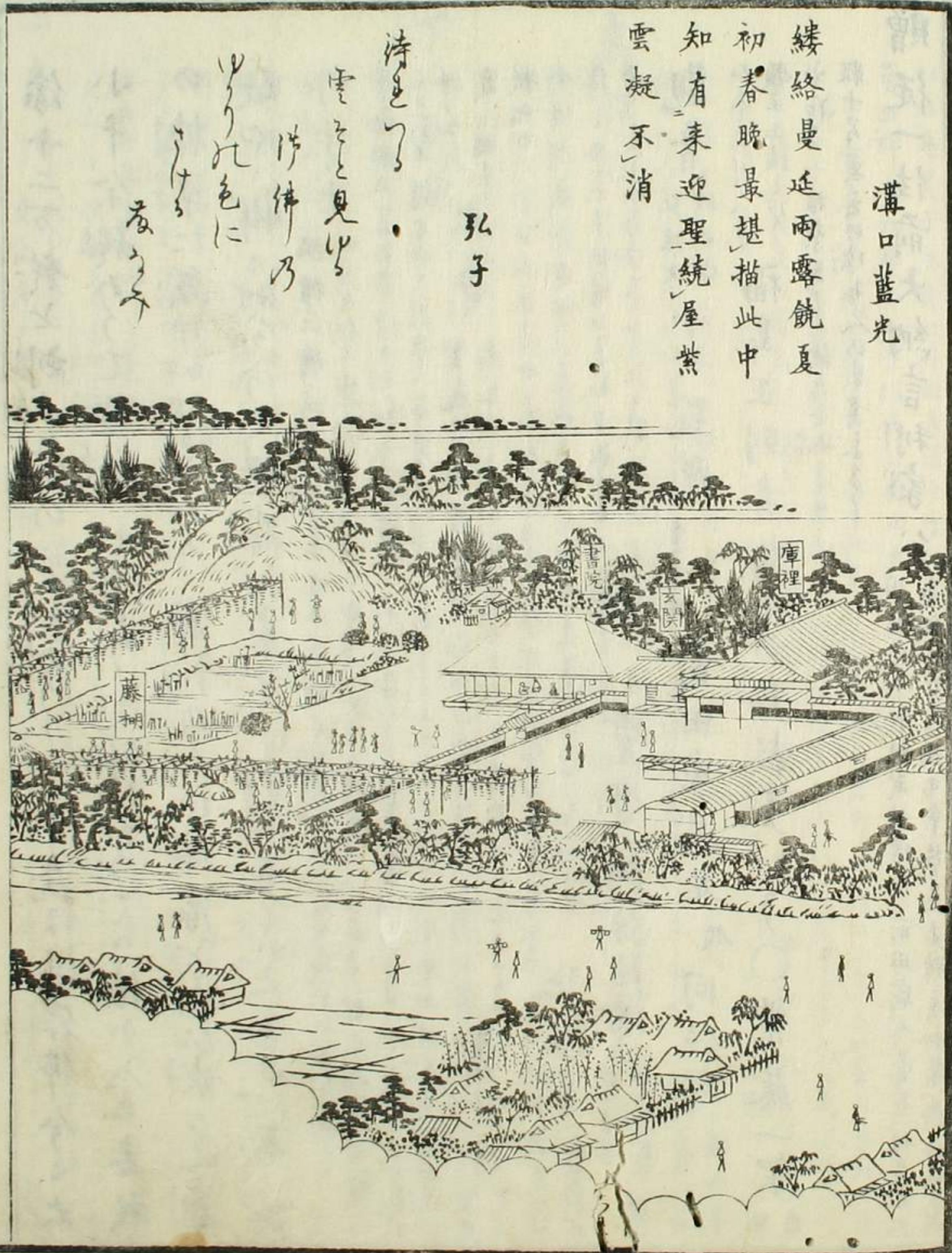
清色了

雲と見ゆ

法師乃

ゆり色に

あふふ



像十二万體と刻まんもの松敷ありしに其作佛今も大
小千余體ありて檀上いそより小仏にうつてハ像小入甚客殿
の棟梁に懸けおけるもあり有信の人ハ佛像と乞ひ求りて崇
敬や憚る時ありて現世と多し又富に送る納

りしと 服禮に護法神あり亦因作りて其眷中に一育の和ふと自草や
千石ののちあり師のまゝに三會寺九十六佛未の世すも圓空血又同禮に
くされ浮木よりわけて子守りれ共と我よりよりして四空師の信ハ近世時人傳小
洋のに 本尊 聖觀音泰澄和尚の作今此堂に前田又在富の利家 多宝塔 多宝
後に略す 天正四年小舟建のり尾陽報記に足えり

秋迎の三と安座す中も毫餘の五即四空の作之貞享年中
小傍田威徳造り寛政年中に傍全免す主傳と云ふ 二玉門 圓空作の
像と安座すは像とも多し郡未山れ觀音に 靈寶 阿弥陀佛 聖徳太子
ありしとありてにうりしと云ふ

觀音 弘法大 十六羅漢 李流賦 前田家具足 領 同位牌 臺に永
乙未正月八日 福島正則書翰との外救多りり ○紫藤一架 内
願主正清より 小あり一振紫藤一他とと巡りり
救する其云の像を人の末妻ふまふ

贈従一位前大納言利家公

同村の人本朝武林傳に前田藏人菅原利昌者其
高祖出自天穗日牟管見未精矣初葉尾及荒子城

以居馬荒子与前田村相去僅十町許故以前田為氏有男号利家為其人也寬仁而智
勇出群自幼事右大臣信長公處而無不從每戰不能無軍功云云と足え 天文十年に
誕生童名大千代又孫信長と改り壯年に又其父の村と名のり因廿三年十四歳より初て
と稱し言名万りのり豊後家に存し加賀と平けられ 孝とて叙爵と賜り
秀吉これ姓及び官名と譲り後羽前古と号す文祿三年の交從三位中納言
に叙じ慶長二年二月十日大納言に轉任り其の所々の合戦に勲功ありて
貴祿と為給に秀吉の傳及び天下の大老と号す其の所々の合戦に勲功ありて
紀州に見え又太閤記に慶長四年三月三日大坂まで遊去りしに云ふ
高野社 根井村にあり祭神高皇產尊創建の年月詳ならず 例祭 正月十一日
鉦六口と備へて神人祭事と行ふ世に西海系と云ふ是れ也但し六十二年毎に
儀ありすまゝとて去に文政十年のや富及び近國して涉海志と稱しありあ
やうれとのと出せり

下一色城

下一色村にあり前田十市居候なり天正十年前前田利長夫婦同送中
都見おに北玉より上東より六月二日安土とあり勢田子と云ふ
けふ白ふり信長公の奴僕頼朝と云ふ者とせり不承りして公の御前に
せしむるに告なれば利長が傳の者ども肝とけり色と云ふは利長父利家の傳
裁前の府中より路の夜道に幸りて是長公の御前より尾張の一族前田と十市
方へ妻と被けんといふは色を傳かきの六天と云ふこと切て尾州への傳候は
十市利長を被けんといふは色を傳かきの六天と云ふこと切て尾州への傳候は
同い妻を被けんといふは色を傳かきの六天と云ふこと切て尾州への傳候は
より馬にのせて恒川空お村居候ありに云はれ口と云ふは尾法へ送るき利長ハ
安土の在女にゆり子連裁府に西國ありしに後武家閑談に
足えしハは色と云ふは旧地名ハ一色川とありて云ふは尾法へ送るき利長ハ

一色川

村の東より大川よりして内川の下流より内川下に海河の流更多く河小蛤
貝化産子孫と云ふは形大く味厚すと名産と云ふは多しハむきりてこれと

高牟神社
物部神社

物部神社



かろくや

黄う

沼苔に

法ふき

茂龍

ひきくぬ小下の一色に漢流と業と者八百余家ありて日毎に府下に運借せり其見敷と燒て石反と製す又く小舟渡り方て西の方海東海西の二郡へ通ふ是と下の一色の後とふ

高牟神社

古井村

成勢天皇の清宇れ法をうり延喜式に高牟

神社本國帳に従三位高牟天神とりのハ社と俗に古井ハ

幡と称と本社 祭神 高牟産靈尊 清和天皇の勅ふりて 延喜式に高牟

正神ハ服に衣多し神懸之尻に船出ハ幡とも 例祭 九月十日 神宝 舟茶又書寫り

若徑五十卷あり 日村小川り傳傳系部部心寺未りとはお家うて 寺号ハ宝珠寺と

金龜山芳珠寺

号 大地うり 救なれ兵火にかり荒廢せりと天和二年九月傍眠

現任良室と經營 意に後始一梵園とふりぬ 本尊 地蔵并小阿彌

物部神社

俗に石井堂といふ建中寺れ赤香車道の東にあり自然に地あり知る一巨

部天神といふありる 祭神 宇麻志麻知命 古社ハ荒蕪衰廢と

物部郷

和名類聚抄に志智郡物部とりのハ地あり今も

實敏僧都出生地

文徳實録に齊衡三年九月癸卯大僧都傳燈大法師位實敏 卒俗執物部氏尾張國愛智郡人也云云と云元亨親書

檀溪

士朗

枇杷園句集



香印

般若基

安永年中香後院寺住僧卧和尚の開き、所して味基山と云ふ事
三丁余を信地りて證人基杖の山行杖と云ふ事

一切経蔵

中興云云 般若基の例より竹居と云ふ事
謝菴 隠士と稱す竹居と云ふ事

八事村

康正二年造内裏後淡美園彼引外に参貫文三上美濃殿尾張國八事村通
辰淡美尾張建武五年八月五日被明美濃の尾張山への参迎状に尾張

八事山興正律寺遍照院

八事村にあり其律宗和泉國大鳥郡大鳥山
神風寺派あり元禄元年八月廿八日 國君建

比丘と中興開山と云ふ事 天陽 當山ハ東西二山ありて尾張高
野とも稱す女人結界ありて西山ハこれと云ふ事
尾常に女人の系泊と云ふ事 西山より东山へおろすハ
能満寺の例ありつまふ事 古に有縁之縁の石塔婆
叔百達つね高野山尖の院に擬すは内に寄堂あり夫

般若臺

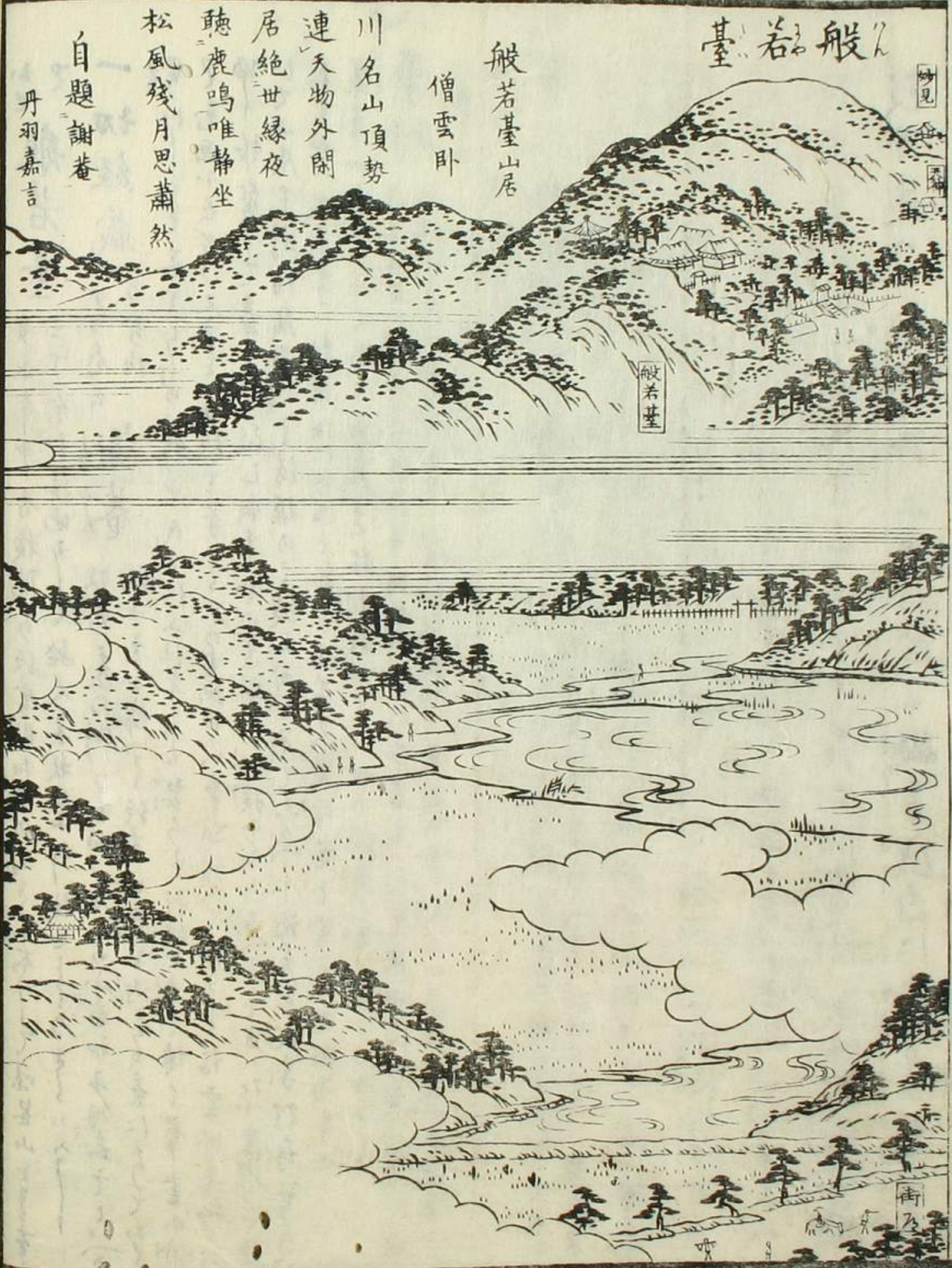
般若臺山居

僧雲卧

川名山顶势
連天物外閑
居絕世綠夜
聽鹿鳴唯靜坐
松風殘月思蕭然

自題謝菴

丹羽嘉言



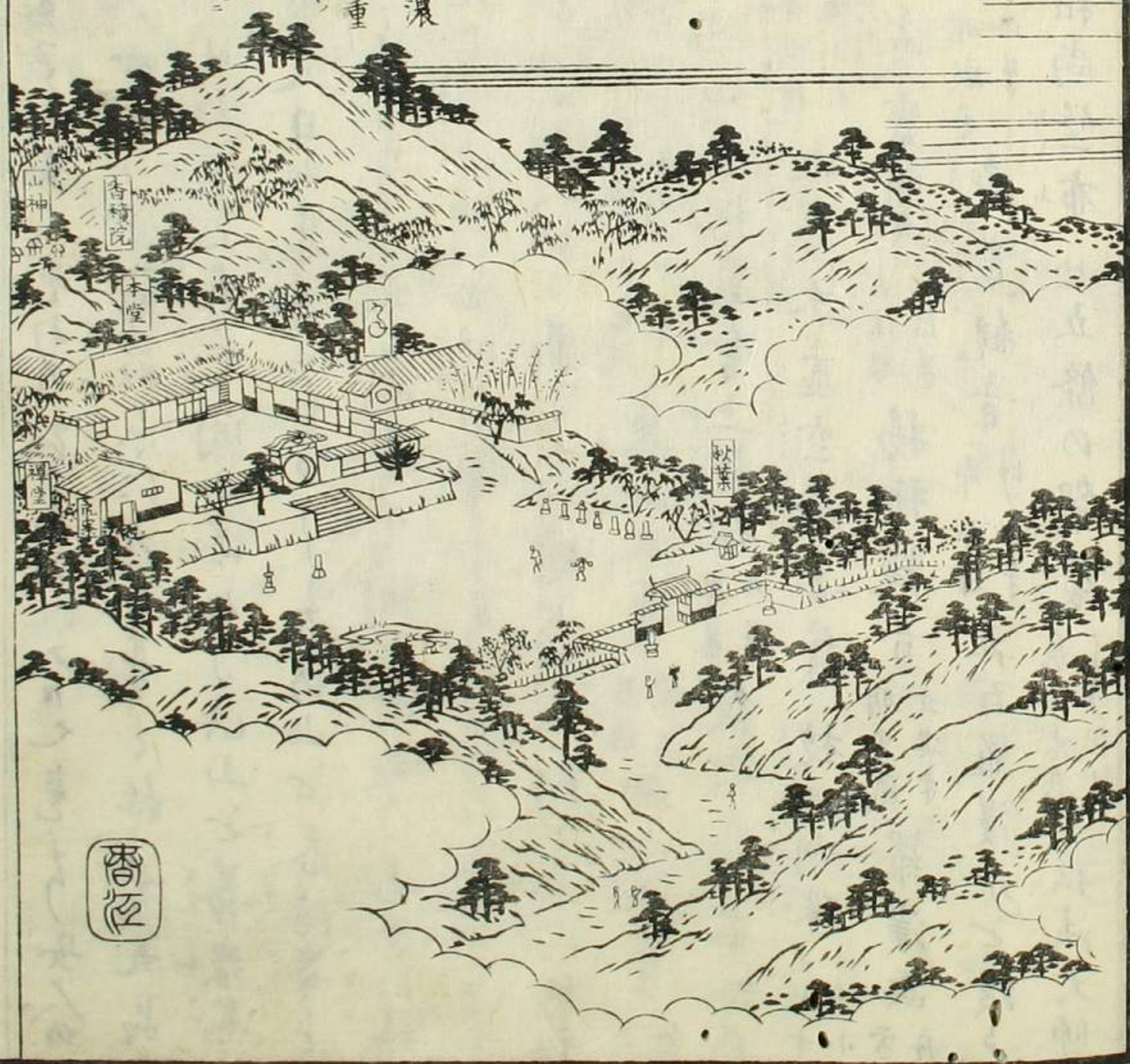
謝菴閑寂晝
如夜、如夢、
時偶如覺日、
清閑以寂滅養
浩然之氣樂在其
中但未克免筆墨
業障聊書所苦以
遺知音云

登香積院

國枝守義

杖山遺稿
曳杖登香刹花開五葉濃
風前青靄亂檐外碧峰重
僧對半輪月鶴眠千歲
松深林春未老坐聽度
疎鐘

香積院



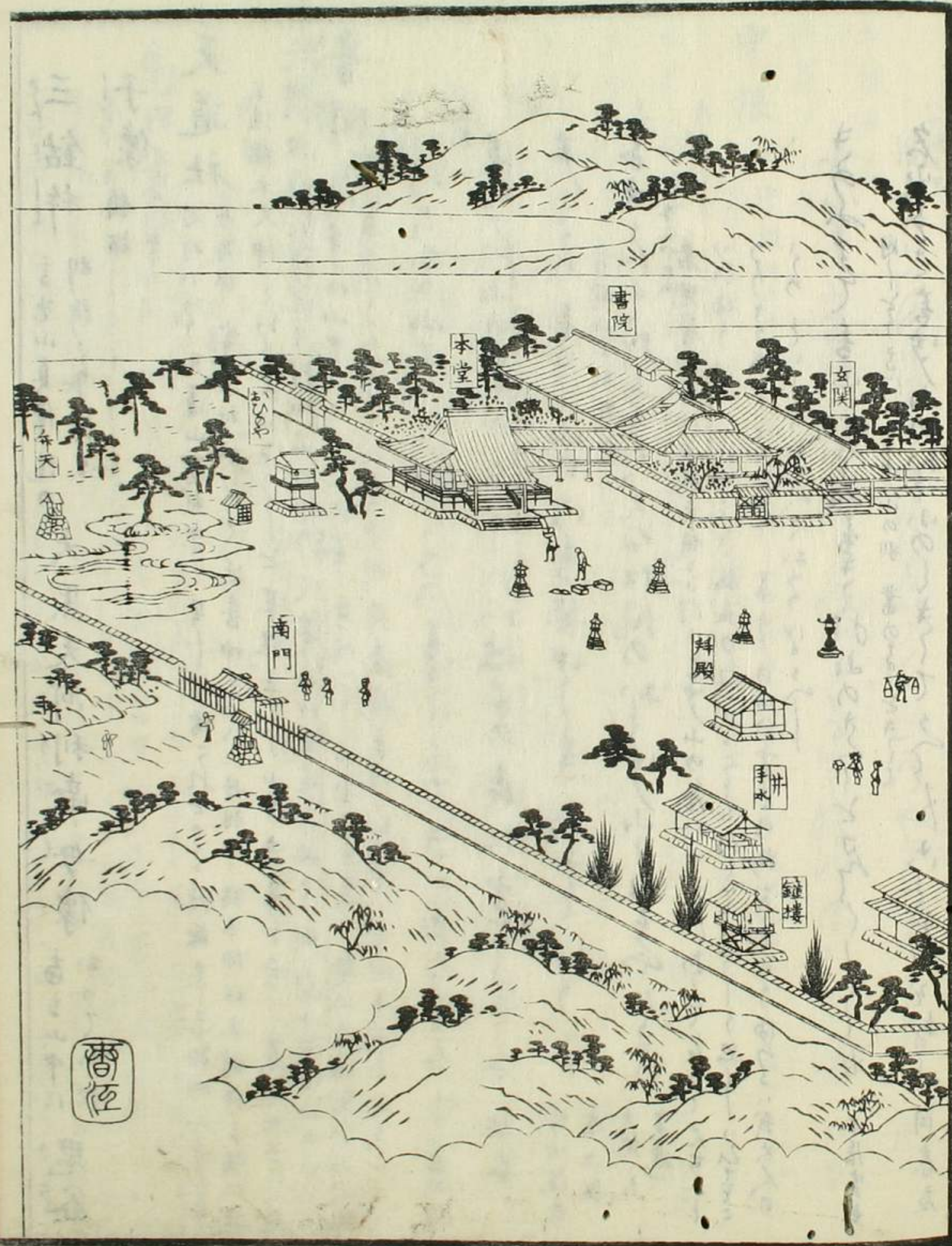
香積

石河伯厚
 養浩齋詩集
 古寺追遊幾歲連
 祇林凡物自依
 銅龍吐水滴苔石
 金鴨吹烟上客衣
 簾外落花空鳥喚
 溪邊芳草有僧歸
 晚辭宝地殷勤去
 山雨謁蒼春日微



其二

夕山也
 時西小
 嗚
 間毛



天道高照寺

賣茶園

尾まハ

可ろろ

河

まろ

まろ

ら

庫裡

観音

北門

東門

香徑

三鈷杵 言也山真律院の 大黒天河利帝母像 高古山中に 鬼谷

子像 顔輝の筆

天道社

丹羽郡新井村にありて延喜神名式に丹羽郡稲本神社本國神名帳に延喜保元年中五月廿八日ありて 稲田名にありて享保年中山中寺号と舎一寛保元年五月廿八日ありて

音聞山

八幸の山中にありて孤峯秀峻なり西南の方をく發田の海面と合ひ流系よりなり 八雲伊勢及藤原等にありて音聞の山尾延と見えたり

喜望山 夫木 の藤原やをうらむ波子の表にをさるるきき

声をり 音聞山古松樹致 山の時を安んずきあふをけり

ふせ 名児屋にをける花大依り門々喜望山の麓にいふいあてをさるるきき 名児屋にをける花大依り門々喜望山の麓にいふいあてをさるるきき

名 因りて 喜望山のわきのまきとてふらん

八十浦之五

風 八十浦之五 吹くは海の浦より原の喜望く山乃や戸れ名を

中根山

中根村の西北にありて 中根村の西北にありて

又 又山つぎに 又山つぎに

北條山 北條山 北條山

島田古城 島田村にあり 島田古城

寺 寺と 寺と

東山の春興

香實

幾擔行厨
 幾瓶酒人
 結隊入東山
 東山滿地花
 開處未了看
 花醉倒還



陳李琳

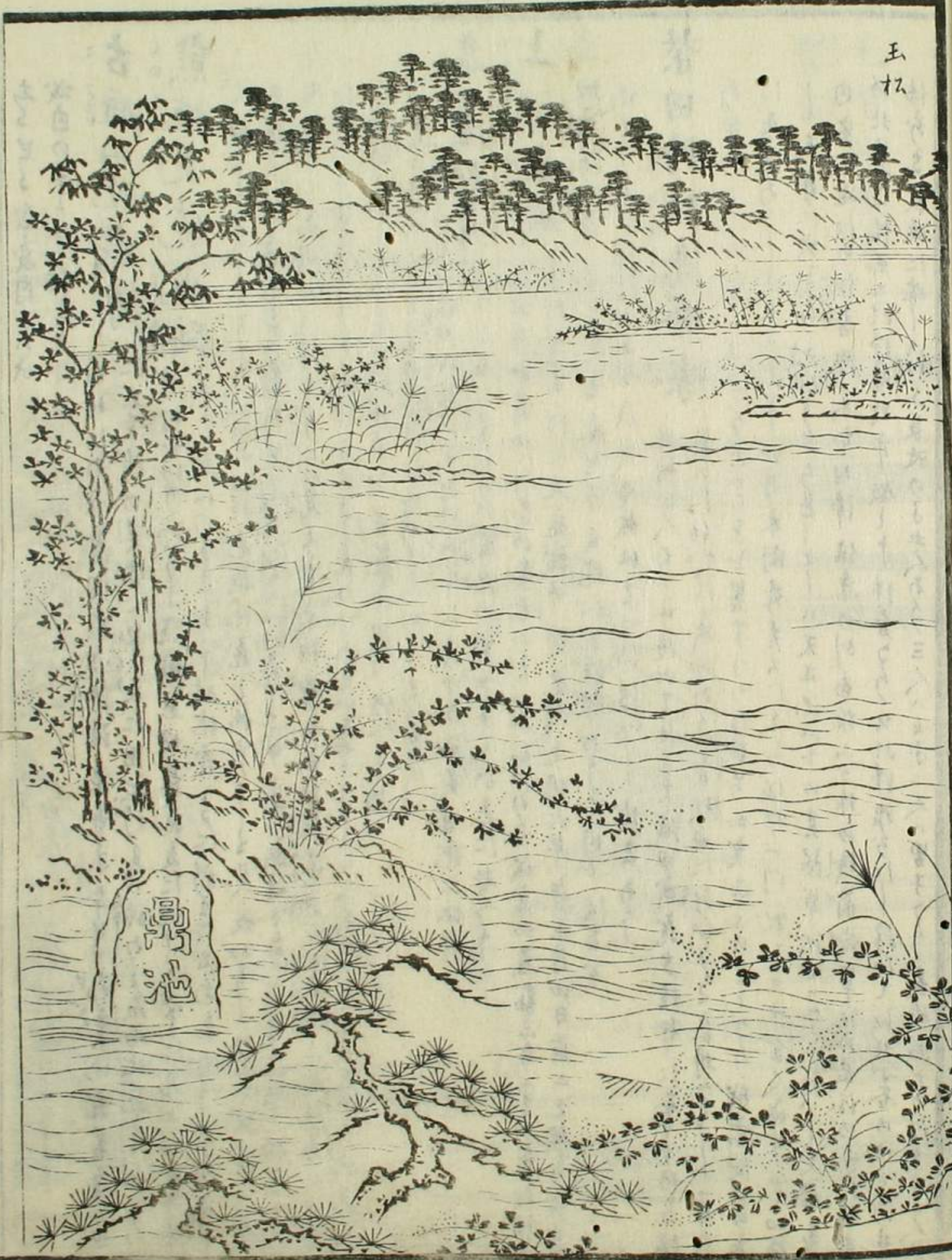
見立天氣克風
 行寄木山毛豔
 布笠生酒樽置
 樹間敲三絃始
 躍戲藝者忘還
 蹴押野山興可
 構開帳閑

無孔笛

花衣

足々りやあはれ
 けふなうい





玉松



中根村
島根の
畔の
萩の
秋

香

あざびるを皮肉といひ
城内の事

古厩山地藏寺

同村にあり曹洞宗沼澤泉寺末本寺毛愛地蔵菩薩世
にあり所の灵像は早天に雨と形は雨地蔵と稱す

熊坂長範厩跡

同村にありむろ盗賊熊坂長範に依り常馬と稱す
其の厩跡にありて地蔵菩薩に形は必色色稱す馬を
て白とせりしは世に毛換地蔵と稱す其も灵應あり
馬を盗人に与りて毛色とせりしは世に毛換地蔵と稱す
其の厩跡にありて地蔵菩薩に形は必色色稱す馬を
て白とせりしは世に毛換地蔵と稱す其も灵應あり

名産松茸

植田山及び近村の山に産す其美味化に比れ
うらに産す其の草摺の男女多くいかに好む

上社古城

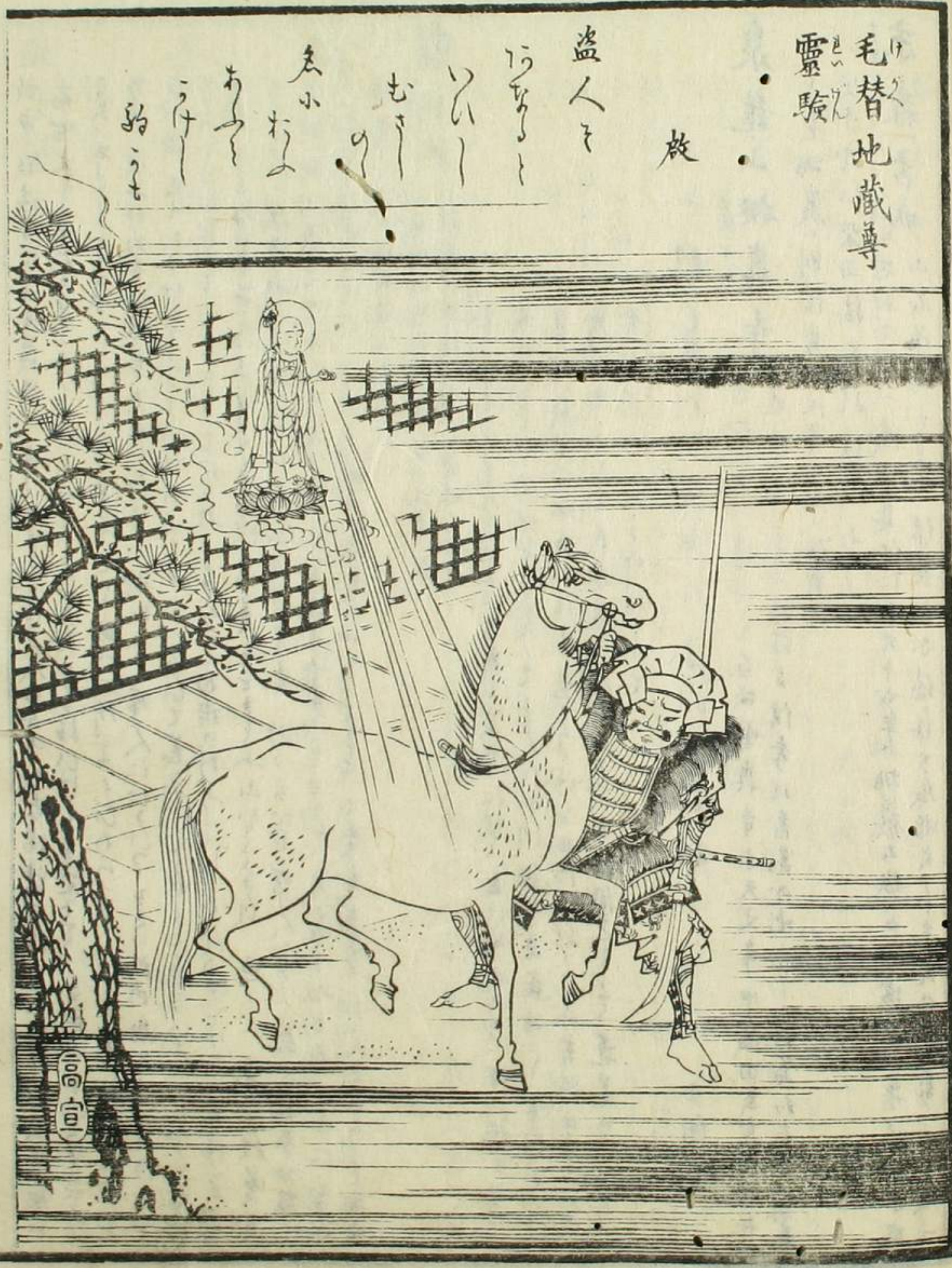
上社村西島の人家の南麓山とす其にあり城之如
加茂勲三郎と云ふ者其の城址とす其の地蔵あり

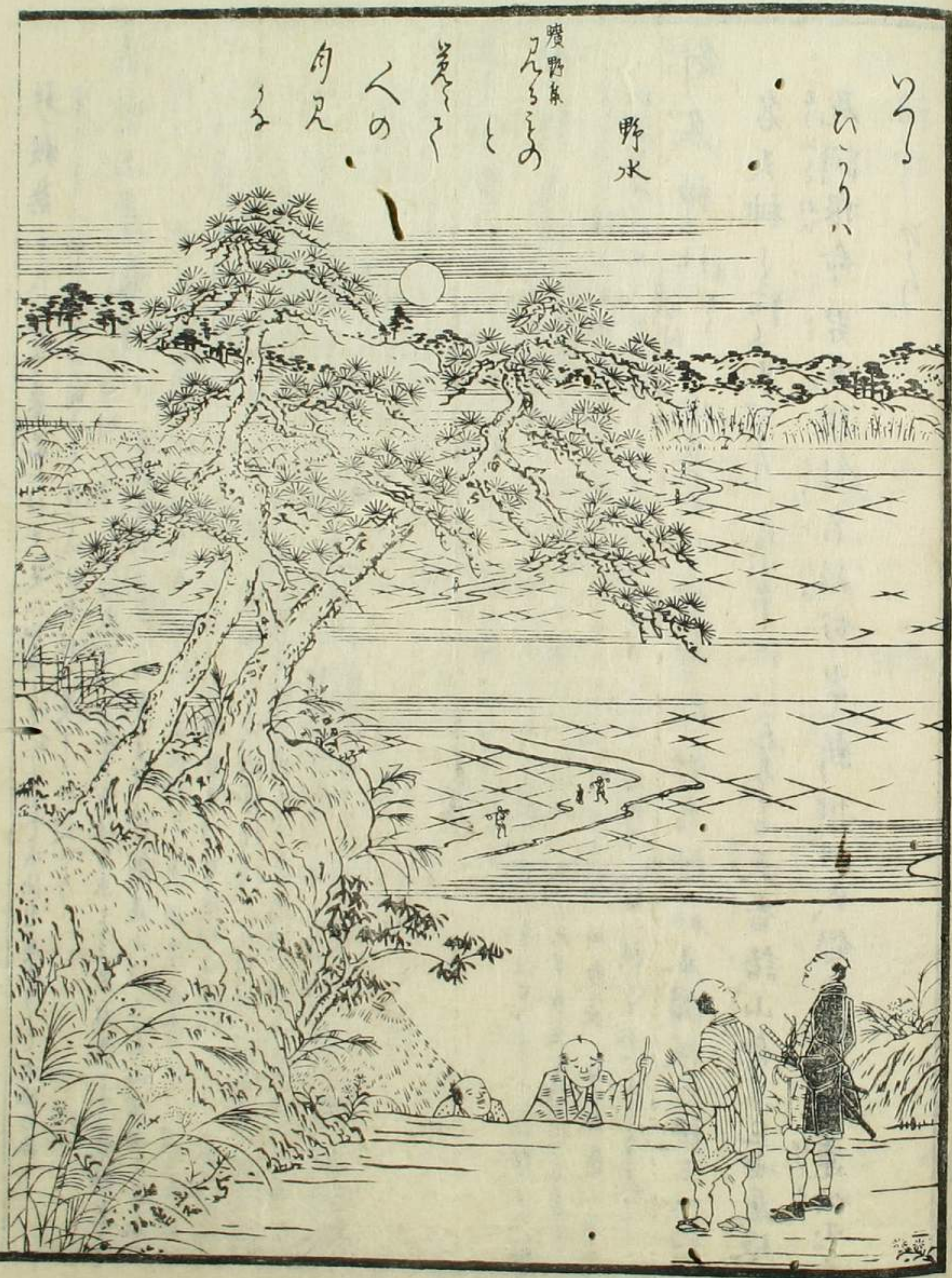
柴田修理亮勝家

同村の人なり其の孫なりて織田武院忠信行に奉り
長云に依りて其の孫なりて織田武院忠信行に奉り

霊験

毛替地藏尊
盗人
あざびる
あざびる
あざびる
あざびる





野水
 月見坂
 秋の
 夕陽関
 乾堂



月見坂
 乾堂
 屈曲溪山路高低
 數里來峯頂攀月
 阪臨眺夕陽関
 正詔
 さやけいな
 秋の
 月見坂
 夕陽関

香江

猪子石
蓬萊谷

蟬あそび

まゆら

いしづみ

小石川

存古



赤池村

神鳳抄に尾張國赤池とありて
田き 太神宮の法廟なり

蟠住山龍淵寺

赤池村にあり曹洞宗岩湧妙仙寺末天正二年丹羽軍刀
の建まらるる處に地を削りて寺号とす

梅森古城

梅森村北の方にあり天平三層高照の居城なり
傳に赤池に梅森三層高照の末子道西天文七年ひさと申具てより
代々血脈承継して梅森とす之を又
赤池に梅森と申す所の居城源なり

竹流山寶泉寺

竹流村にあり曹洞宗岩湧妙仙寺末天文四年丹羽和泉守氏從
善提の爲に建まると境内に氏從の石牌ありて宝泉寺殿龍潭道

唐砂

竹流村北の山よりあり傳に白砂にて築き置きたり
竹流村北の山よりあり傳に白砂にて築き置きたり

白山權現社

竹流村にあり大永三年九月十日丹羽義統が氏傳りしを
今に退將すくを竹流岩湧妙仙寺村の生土神とす

竹野山

竹野村西の方にありひわりの山なりて樹木鬱蒼し
竹野山の西の方にありひわりの山なりて樹木鬱蒼し

岩崎瀧

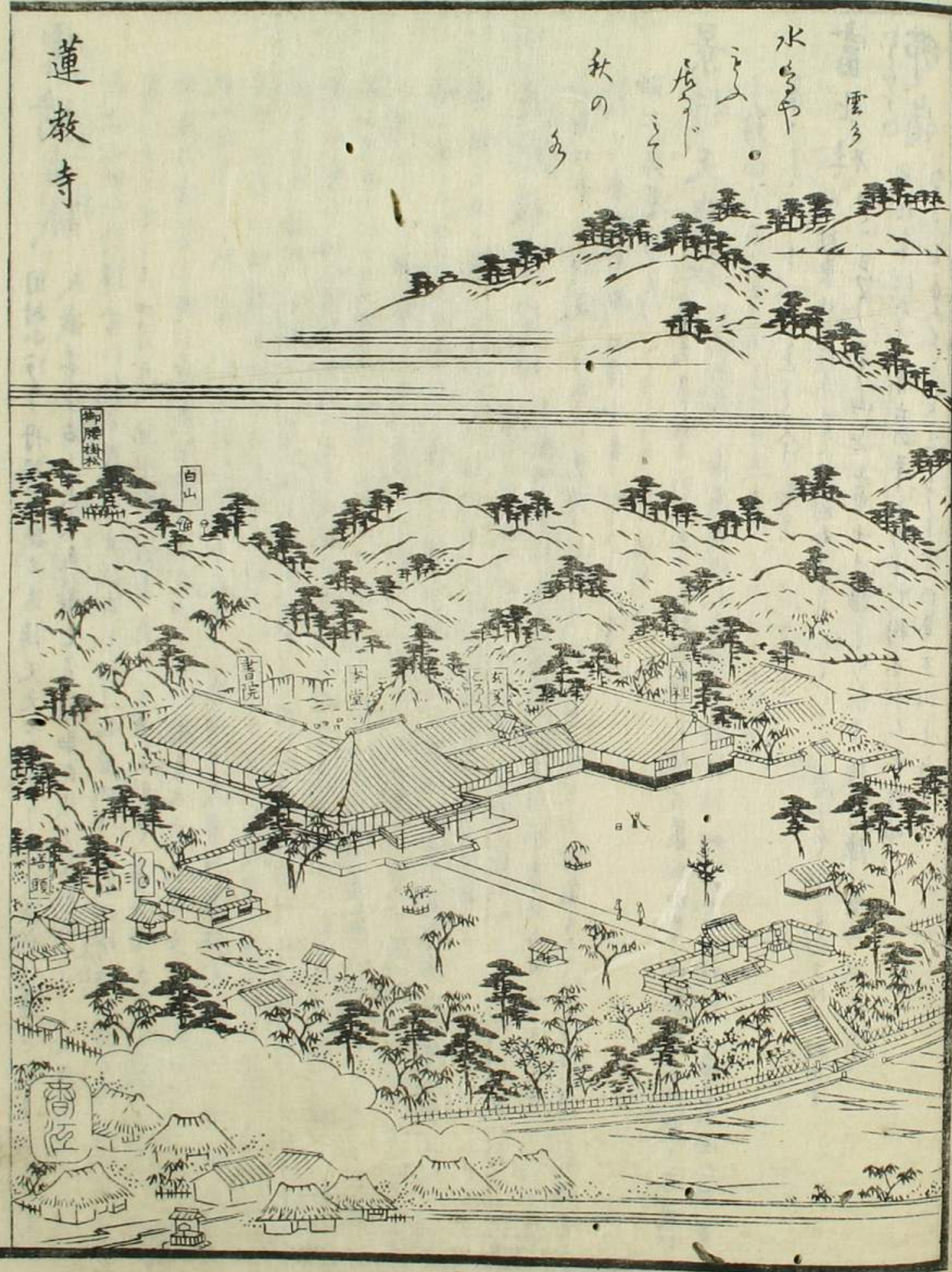
竹野山の西の方にありひわりの山なりて樹木鬱蒼し
竹野山の西の方にありひわりの山なりて樹木鬱蒼し

大椿山妙仙寺

竹野村にあり曹洞宗岩湧妙仙寺末永正元年丹羽義統が氏傳りしを
建まらるる處に舊号万年山長松寺とす永禄七年今に改む

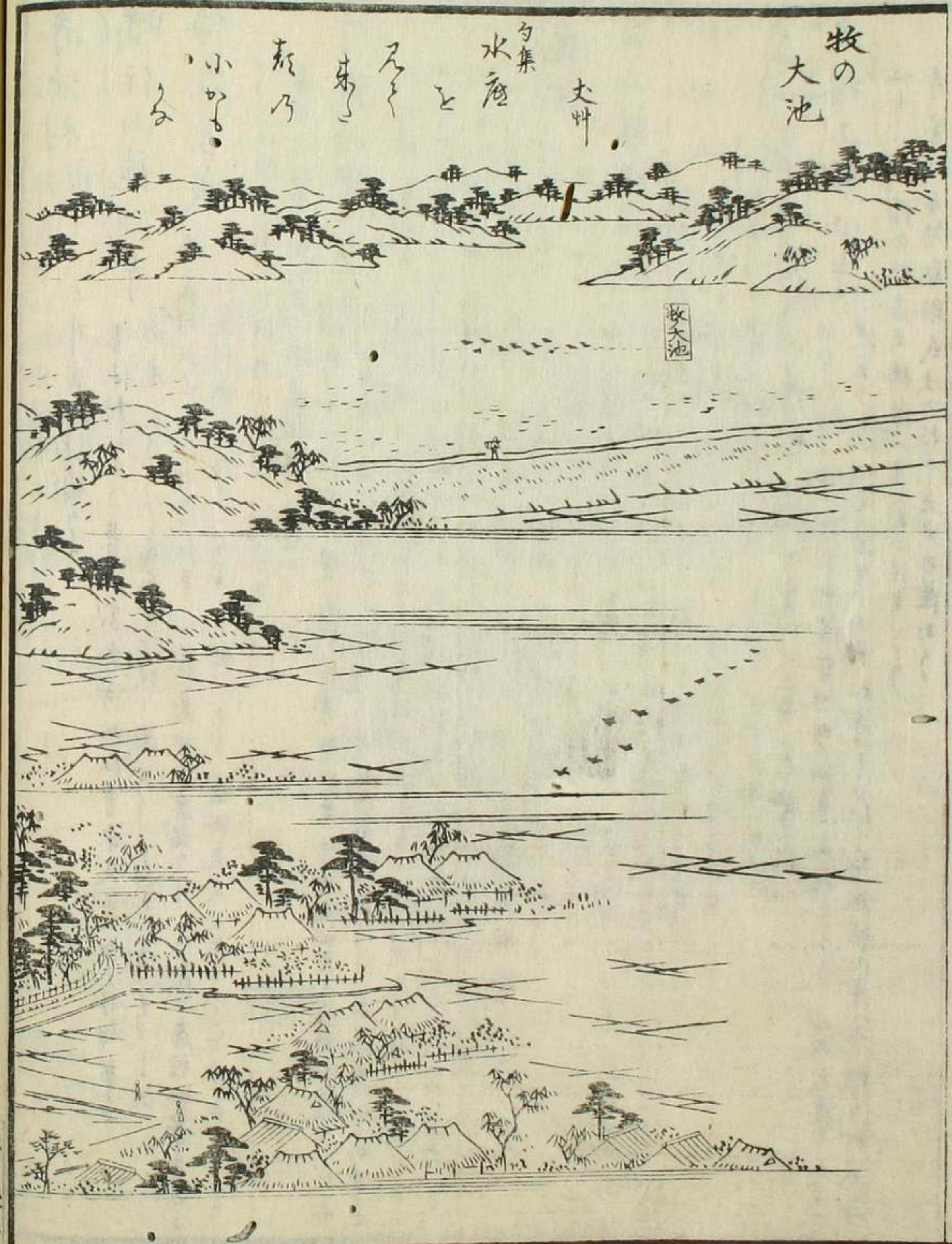
仙寺ハ氏傳の法名大椿院ハ其室の法号なり
寺室に西海勤助氏次の抄ハ大分の法号なり

蓮教寺



雲多
水
居
秋の
多

牧の大池



夕集
水
大
乃
小
多

牧大池

岩崎古城

田村小次郎丹波義経古氏清天文三年に於て此城と築き其子右近大次郎氏次小次郎の清陣管に起き右近大次郎氏勝之子勤助氏次まで在城也。天正十二年三月等にもちて四月九日他田勝入森武虎古大軍と神と責けり氏重を討つて他田表の橋勢と我い勇義と振ひて從四十二人射矢三十八人歩卒六十八人奴僕七十人高の入城也。この三十人勇計二百四十人そく戦死也氏重は名鉄樹院傑山常英大居士妙仙寺に位牌あり加茂忠景も同内に討死す。氏重小次郎大軍と戦ふ。天正十一年いささののりによりて君の勤助とてあり。清田家に仕へる。天正十一年いささののりによりて君の勤助とてあり。清田家に仕へる。天正十一年いささののりによりて君の勤助とてあり。清田家に仕へる。

川尻肥後守宅址

肥後守宅の跡に河尻右衛門左衛門の歿す所と傳ふ。天正十七年三月小豆坂合戦の際に河尻右衛門左衛門の歿す所と傳ふ。天正十七年三月小豆坂合戦の際に河尻右衛門左衛門の歿す所と傳ふ。天正十七年三月小豆坂合戦の際に河尻右衛門左衛門の歿す所と傳ふ。

景行天皇社

長久手村小次郎の今三社所也。景行天皇の創建。享祿三年及び弘治二年、高良氏の入重修す。杉社神明社白山社此。帝志玉に行幸す。

富士社

田村東北にあり。古に教祠あり。今も古く。廢す。今も古く。廢す。今も古く。廢す。今も古く。廢す。



岩寄瀧

香印

長湫古戰場

長久手村あり其地甚廣く若作若傳おれ戦村に日あり陣備の旧地
戦死首塚の古跡ホミ箇所多くして古くは記しなくはは

織田信雄云れ長谷伊勢の松島今此の城は津川云萬九

尾張の早濤の城之岡田長門も同岡川安賀の城之沙井田

宮丸の三士いそに豊臣秀吉云に荷擔し之君一討一逆意

のきこしあしり或人若し信雄云志憤り天正十二年

三月三日彼三臣と伊勢の長鴻れ城中に石よ世不意に誅

戮せりまより事起り信雄秀吉のあふ不岐とこもみ

終に合戦小及び秀吉云大軍なりとも大神君信雄

云よ沙加勢ありく豊臣家れ兵大よ沙池田信輝入道勝

入其子紀伊也之助及び其弟吉武茂也長一等戦死地

あり忌諱甚多けは止むとほむとく是と略と明和八年

辛卯十二月苗府の世居人見赤林のあな後來他田父子吉三士の戦死の地は事跡と失
りんりんと患共小謀りて三士のあに各名及び戦死之地と附記し三ツの石標と
建て又遊長湫記と撰りて當年戦場の委悉と記し生作村の安昌寺に
納む文長けは六と異は只赤林伝之のゆりかと抄りて末に載せり

於戲英武維雄維神麾毛攘敵天下歸仁赤林信雄

憶昔長湫競六師技山覆世擁旗彎弓楚將走斜

月剛鏃漢軍報威時白骨風寒雲影暗青松威盡暮

烟掃到來今日何看處空有荒墳鳥雀悲戸田壽平

義旆飄來日其鋒不可爭一戰斬三將千載垂威名

山巒々々分水冷々松風猶作凱歌聲

岩作村

和名抄に山田郡石作とあり
山田郡石作とあり

石作神社

岩作村にあり今神明社と稱は延喜神名式に山田郡石作神社本國
帳に從三位石作天神とあり是なり祭神建摩利尼命姓氏録に
のり石作連の祖神なり是免の年月定るなり後花園天皇の正和年中に重修なり

例祭

九月十五日
芝馬とあり

富士權現社

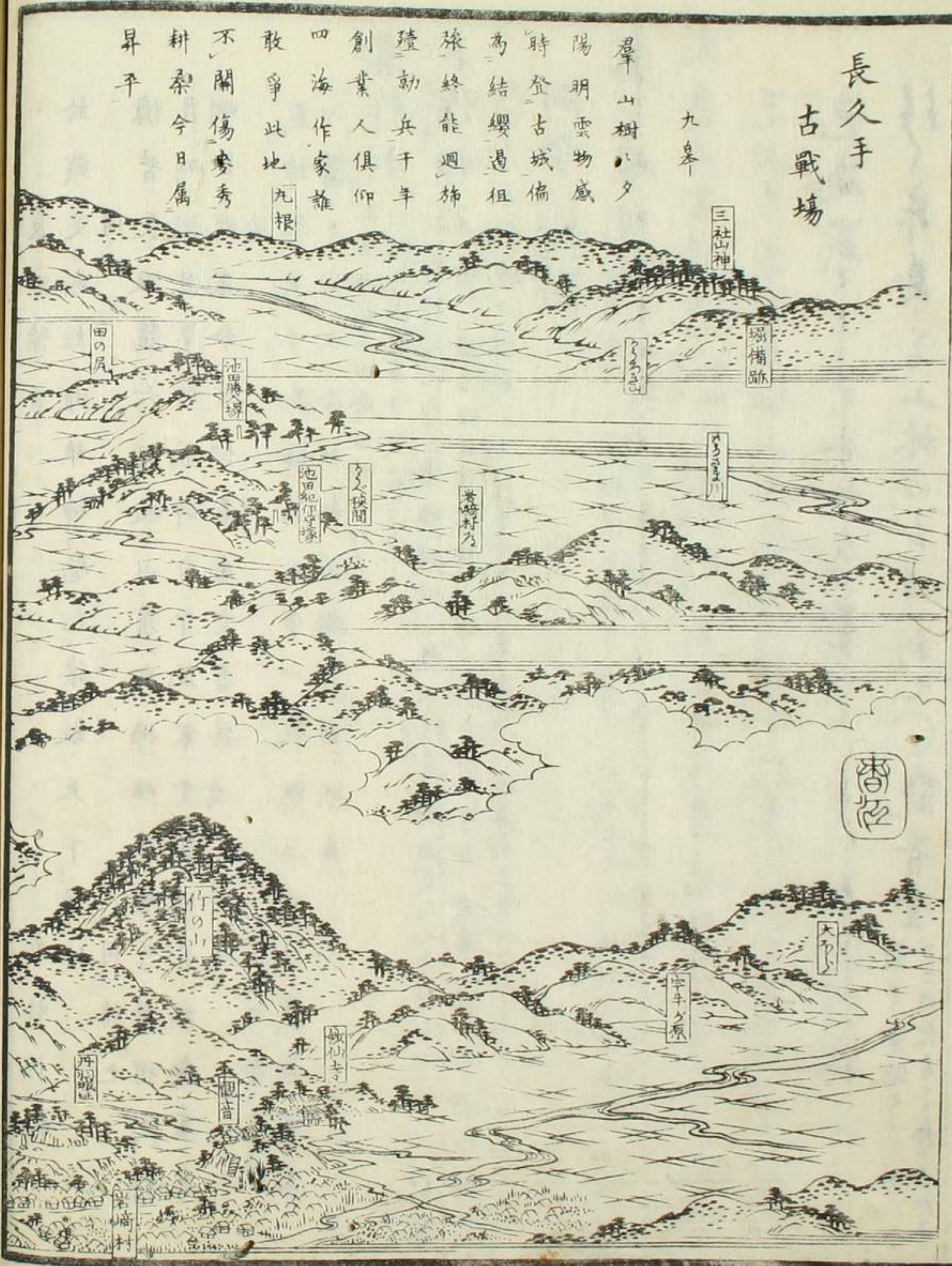
同村小なり文禄年中清井助義の管達なり神社伊勢縣新伊豆白山
日右麻呂三島箱根等れ祠ありて境地甚だ廣大なり

久岳山安昌寺

同村にあり曹洞宗
白坂雲真寺末
天正十三年丹羽勘助氏次建立

了山よりく色金山といひ後今れ号に改む南山といひ後
色嶺義くして老松蒼鬱あり前に香流川源くして

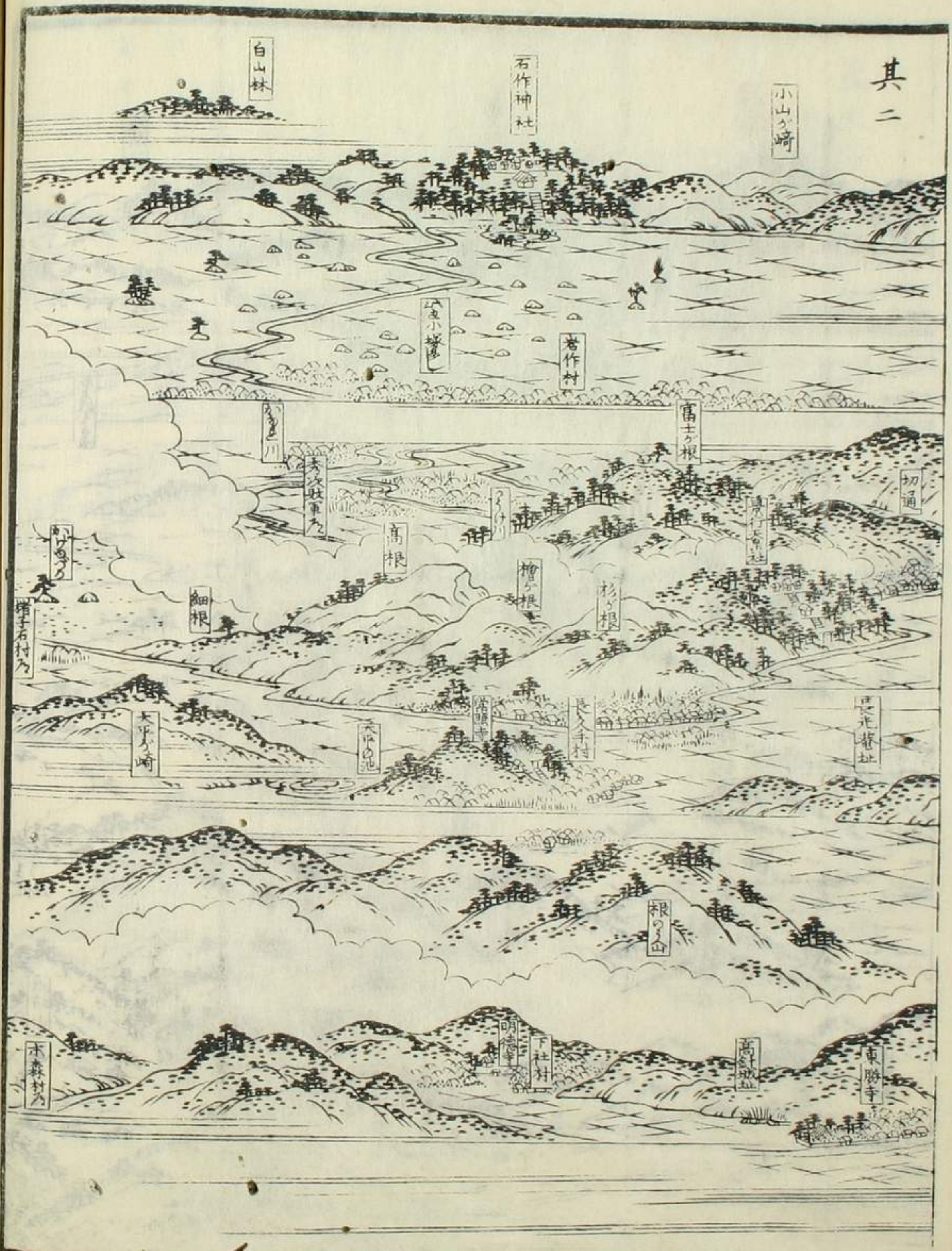
清く并莫る山林の古禪刹之○觀音堂本寺古物あり世にや
ごこの觀音と稱す毎年



長久手
古戰場

羣山樹以夕
 陽明雲物感
 時登古城偏
 為結纓過祖
 孫終能迴旆
 墮勅兵千年
 創業人俱仰
 四海作家難
 敢爭此地
 不關傷參秀
 耕桑今日屬
 昇平

香



正月五日里章ありて
田中祭とてとる

御床机石

同村色根の絶頂にあり方四尺余の大理石なり其久しき津のり神君侍腰
とかけし古銘とて室永四年福富祝成り建一石の碑あり銘に徳風
偃草紫極轉星

首塚

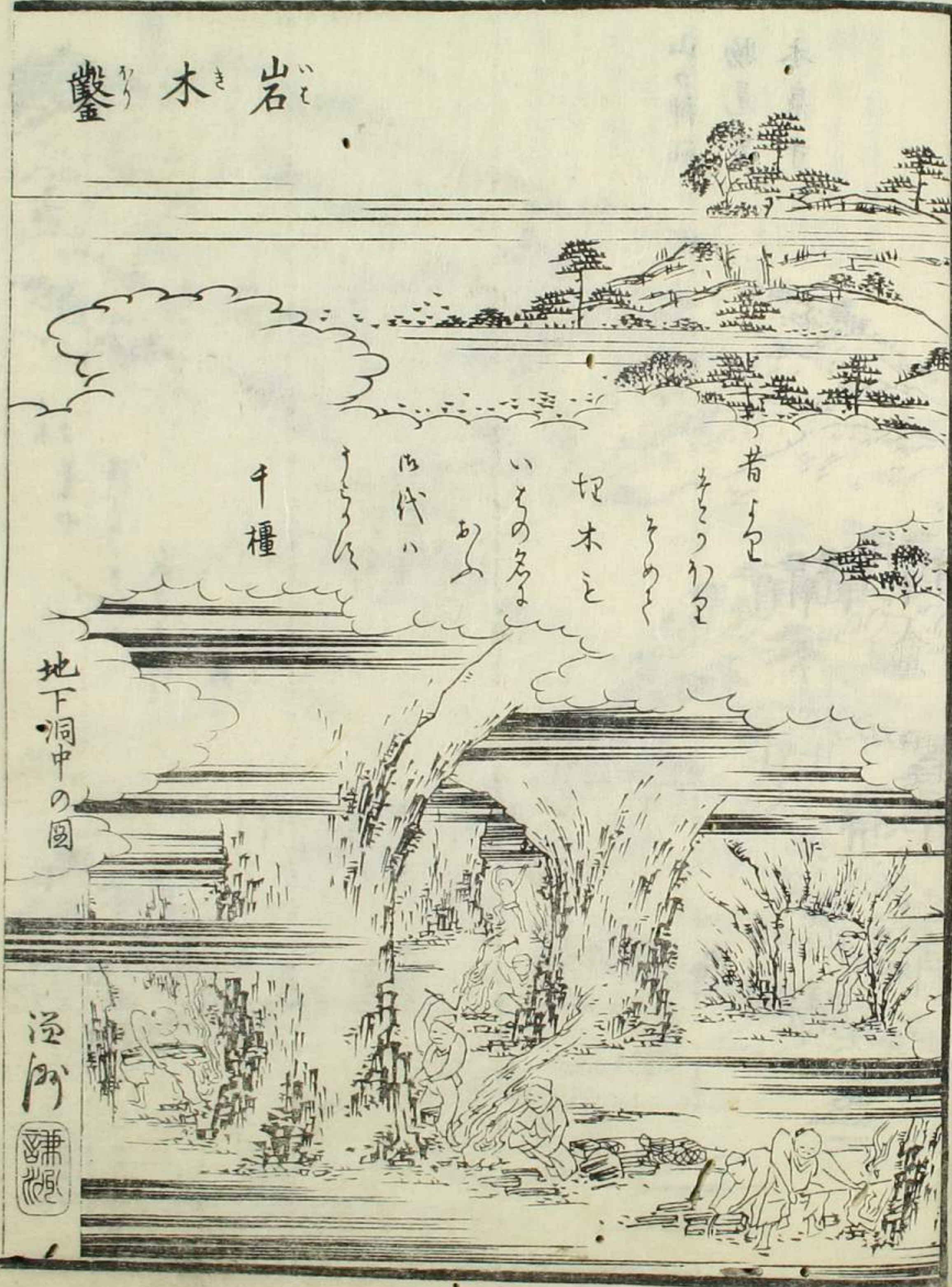
安昌寺北門前にあり雲山和尚我作小惻隱の多し氏姓と海江士卒の首と若
作の里人と共にかきありて是と埋り自ら法号と後けりいけり是と首塚
とて存まじに福富祝成り碑と建て小治一首と勅とて小云泥牛争角
化城海木馬飛光旋火輪試問蘭臺麟閣品觸騰眼上惹瞋聲

岩木

若碓村若作村の北にあり春日井
本草より石炭は取らる一凡そ地に
入るより五六石ありては物なり其質石より柔りに土より堅く木

小似く氷より灰に土俗岩木と通称とま色黒く日と経る乾
く時ハ驛積あり徑り或ハ五十間百石ありハ際限と知りしは
是長短小玉てハ更に量りかき幹の中に花開きくもこれ物き
實と結ぶ民家尾と薪に代へ炭小豆く炊爨に供と柳と真
氣のれハ府下小尾と月いど灰に埋りて炭小換ふは是なり
り也田炭に十倍なり奥信長加伊和備豫ホの諸民に以此炭と表

鑿木岩

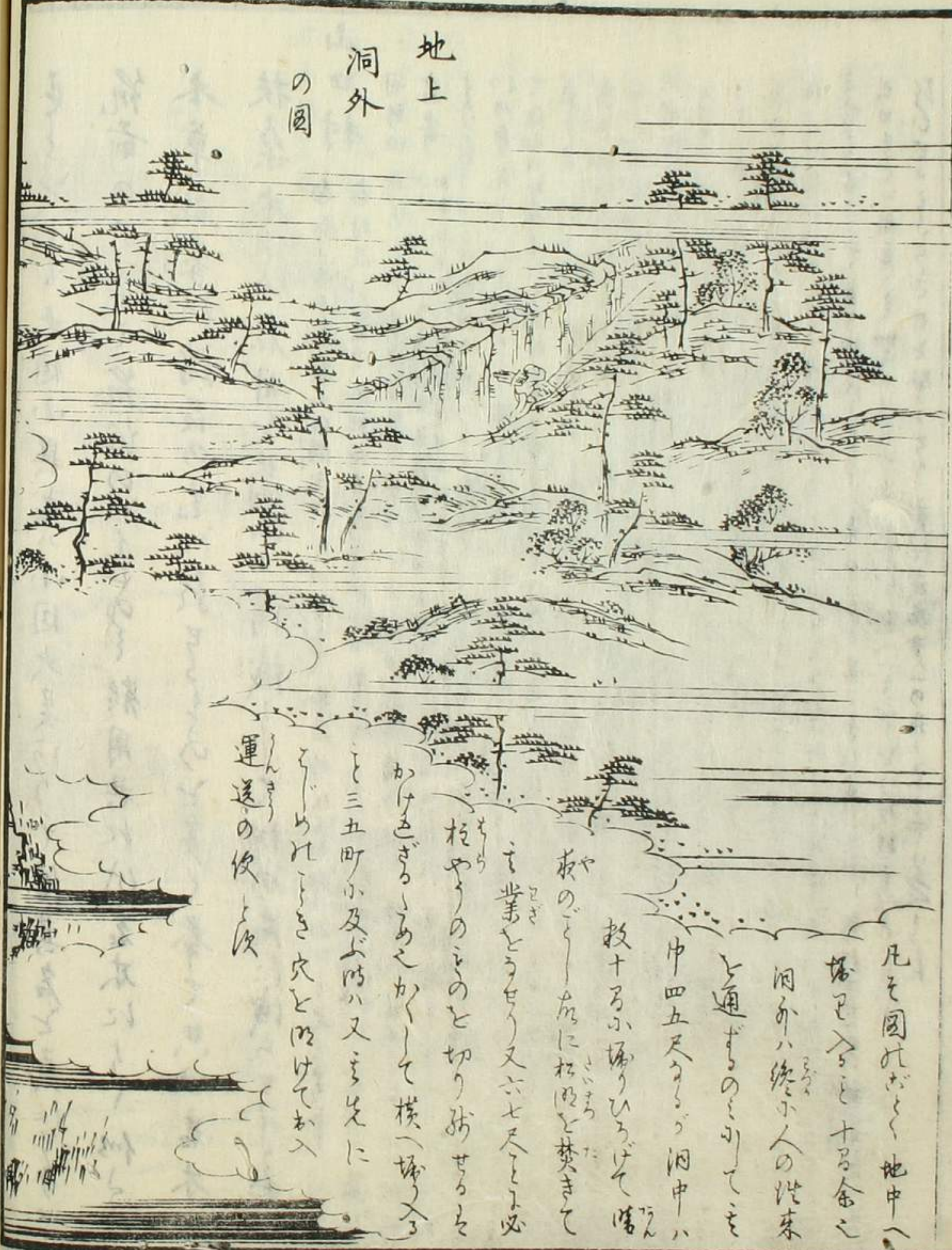


昔々
きつり
切木と
いその多
は代ハ
千櫃

地下洞中の図

江戸
謙

地上
洞外
の圖



凡そ圖れどく地中へ
塔已入ると十層余の
洞外ハ終小人の世末
と通ずるのりてそ
中四五尺さう洞中ハ
数十層小場ひらけて
萩のうらたに松樹と焚きて
ま業とうせり又六七尺とよ必
松やうのものを切りおせると
かけ色ざらふかかくて横へつる
と三五町小及よ防ハ又ま先に
こりれとさ穴とぬけてか入
運送の便と成

山口神社
物見岩
本泉寺



夕暮や
清りきれる
秋の川
巴新

香

物見岩の絶頂ハ四
脚の山もあふ及び
美三の山も物見岩
ゆへに物見岩の陶畑空に
あふびけりも又えは
又名古危の金持を初
犬山業名刈を長崎
奉母の懐かしくわに
香と強きわくわく
熱田此海面とよに
取ら斗りつてま
風来をくまに
名區とよ



山口神社

山口村あり延喜式に山田郡山口神社とあり山口山本國帳に從三位山口天神とあり 昔神社の側に沼あり山田五郎とあり其の地を築き神宮とす後社多矣神祠あり供

教春山本泉寺

因村小あり田家一乃四寺所あり未末南基淨顯とあり此山氏ハ 教春山本泉寺とあり山田名ハ教春三郎とあり清和天皇廿五世の高孫之春教とあり

選擇集御附屬御影

顯聖上 光明遍照四句文 日色袈裟衣免許之

物見岩

同村の東にあり三つ岩此山一地と云く尾池三河の山く及び南の方と云く小峯海と云く尾

海上ヶ洞

同所の東にあり若石多し羅列し山徑の峻峭とあり民家あり

雲興山龍谷寺

及清村にあり曹洞宗三行國縁承の永沢寺未永正元年の建之開

道休山清安寺

諸和村にあり曹洞宗若清村妙仙寺未天文三年丹羽右近左

玉松山祐福寺

祐福村にあり浄土宗東照淨林寺光明寺

村上天皇の後流久我通雄卿の子少く幼き時南都小在り

十二衆少くて園城寺に入り別髪具足戒と受り善導寺

智通上人に謁して宗と改り佛法相承すのち東国に托歴

之に辨に阿弥空妙或人の豪族と云に留依資財と捨

寺院と造立せりかくて後奈良天皇の勅詔あり天下安全

の祈禱と終り大永八年倫宣と下賜り後毎月朔日一山の

僧徒おちに集會して大般若經と轉讀せり永享四年九月

足利義教公富士淨流ありし寺少く和歌と詠どむし

芳躰甚多くてそまに南云の巨刹あり本堂

世の住僧融結かなの白山に結して終老廻に況して抽中より三軸とあり

代の更傳あり又善導の像あり知多郡須依村の徳翁細くゆ中より

了り光明寺に安坐せり善導に護摩堂

勅使門

車



義教
 山の秋
 此の山の
 秋の
 山



部田
 祐福寺

玉壺詩稿
 上方夜色正
 徘徊飛塔月
 登沙界來山
 擁深林清磬
 響天懸魄卒
 佛燈開香烟
 遠定驪龍窟
 貝葉翻經白
 馬臺坐久偏
 知不染境誰
 言心地竟難
 及
 中西淡湖

宿 同門外にあり今 関伽井 達智らりて登山して印と結び呪と通じりて泉

老松一株跡あり 大悟院 受徳院 孝耳院 法性院 ありて今に在りては中をりて井のりて

御器所村 府下東南の近きなり 東銘の文治六年四月十九日造 大神宮 役夫三末地以

瑞雲山龍興寺 御器所村にあり 曹洞宗 春日井 郡大野村 福蔵寺 未當邑の城に依り

八幡社 同村にあり 富士白山 高橋院と今に在りて 古くは元平 高村の城に依りて

御所屋敷 同村にあり 於藤中納言の屋敷のありて 公卿補任の古書に

天瑞寺 大政所 同村にあり 大岡の母 天正二十年七月二十二日 龍一 天心記に

大政所 同村にあり 大政所 二葉の秋 尾尻の村 重とて 假居にありて

御器所村 府下東南の近きなり 東銘の文治六年四月十九日造 大神宮 役夫三末地以

瑞雲山龍興寺 御器所村にあり 曹洞宗 春日井 郡大野村 福蔵寺 未當邑の城に依り

八幡社 同村にあり 富士白山 高橋院と今に在りて 古くは元平 高村の城に依りて

御所屋敷 同村にあり 於藤中納言の屋敷のありて 公卿補任の古書に

天瑞寺 大政所 同村にあり 大岡の母 天正二十年七月二十二日 龍一 天心記に

大政所 同村にあり 大政所 二葉の秋 尾尻の村 重とて 假居にありて

御器所村 府下東南の近きなり 東銘の文治六年四月十九日造 大神宮 役夫三末地以

瑞雲山龍興寺 御器所村にあり 曹洞宗 春日井 郡大野村 福蔵寺 未當邑の城に依り

八幡社 同村にあり 富士白山 高橋院と今に在りて 古くは元平 高村の城に依りて

御所屋敷 同村にあり 於藤中納言の屋敷のありて 公卿補任の古書に

天瑞寺 大政所 同村にあり 大岡の母 天正二十年七月二十二日 龍一 天心記に

大政所 同村にあり 大政所 二葉の秋 尾尻の村 重とて 假居にありて

御器所村 府下東南の近きなり 東銘の文治六年四月十九日造 大神宮 役夫三末地以

瑞雲山龍興寺 御器所村にあり 曹洞宗 春日井 郡大野村 福蔵寺 未當邑の城に依り

八幡社 同村にあり 富士白山 高橋院と今に在りて 古くは元平 高村の城に依りて

御所屋敷 同村にあり 於藤中納言の屋敷のありて 公卿補任の古書に

天瑞寺 大政所 同村にあり 大岡の母 天正二十年七月二十二日 龍一 天心記に

大政所 同村にあり 大政所 二葉の秋 尾尻の村 重とて 假居にありて

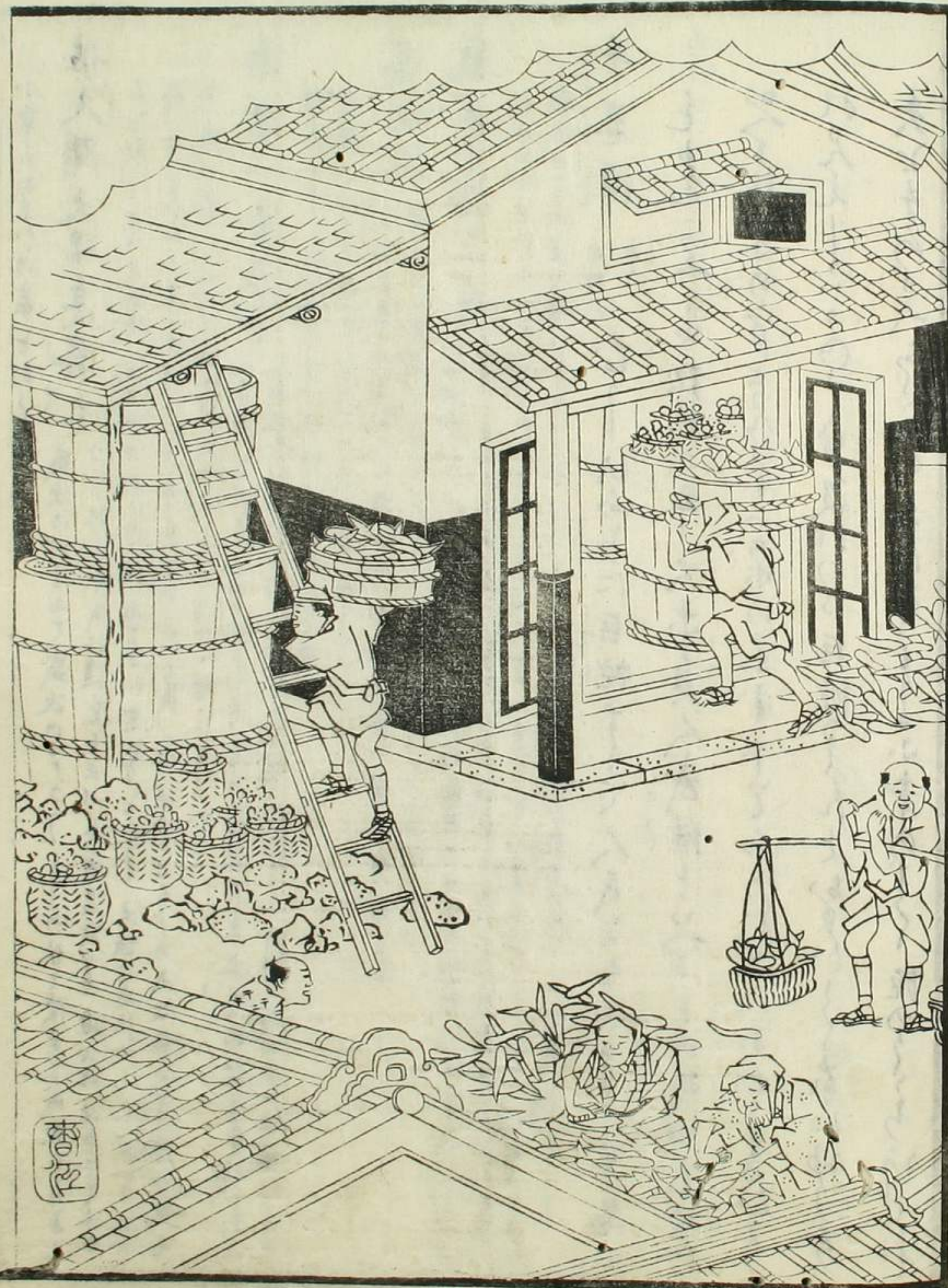
御器所村 府下東南の近きなり 東銘の文治六年四月十九日造 大神宮 役夫三末地以

瑞雲山龍興寺 御器所村にあり 曹洞宗 春日井 郡大野村 福蔵寺 未當邑の城に依り

八幡社 同村にあり 富士白山 高橋院と今に在りて 古くは元平 高村の城に依りて

御所屋敷 同村にあり 於藤中納言の屋敷のありて 公卿補任の古書に

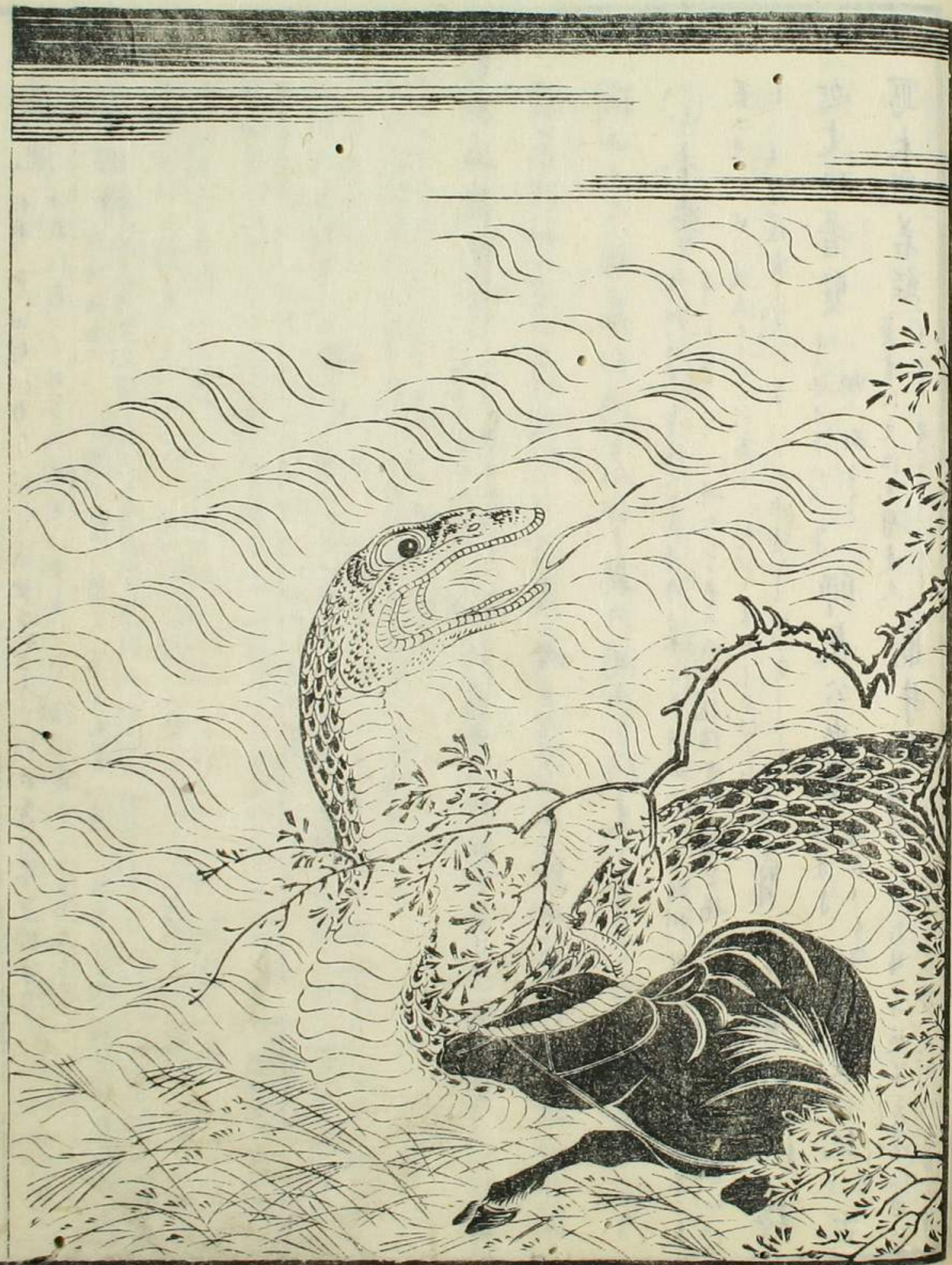
天瑞寺 大政所 同村にあり 大岡の母 天正二十年七月二十二日 龍一 天心記に



沢菴漬

御所村及び此の村にて是
 と製す年中日ごとく惣夫買
 とりて厨下に貯蓄するは
 大根と東白と糸
 して宮東方傾
 なるの名産とハ
 又小別種
 凡そ菘とて
 十月の末
 おまの正月
 まで日仕
 込の大造
 る因と
 なる知
 へ

1854
 1855



牛卷潭
古事

三國

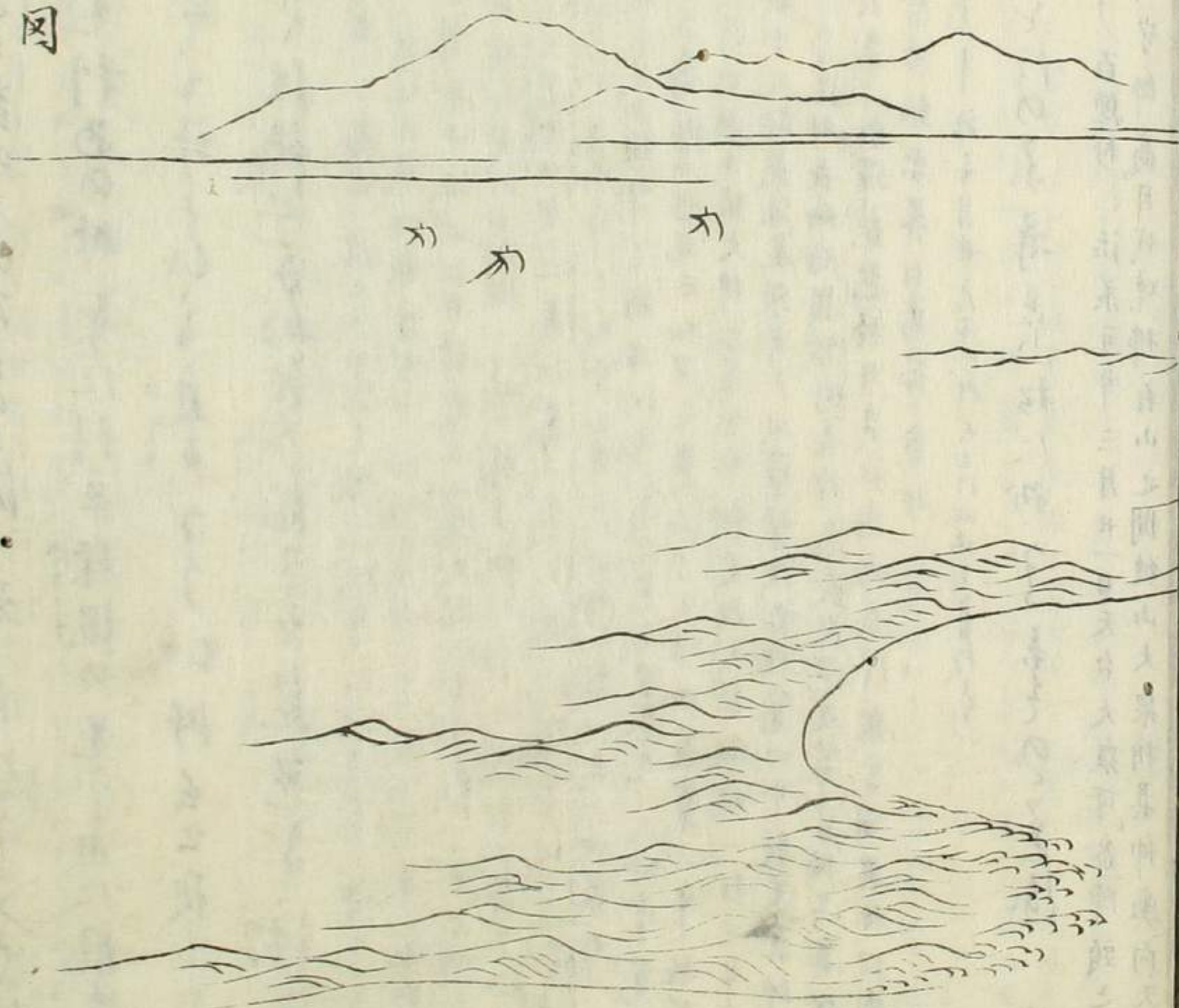


塚田神社 世に長森八幡といふ
 龍泉寺
 師長公屋敷跡
 師高兄弟塚
 牛卷潭跡
 蛇塚

香印

師長公謫居の図

防丘詩選
松風里外聽漁歌
秋色新添寒水波
君儻非逢寥落日
爭知東海月明多
猪飼為春



七十三歳源忠季画

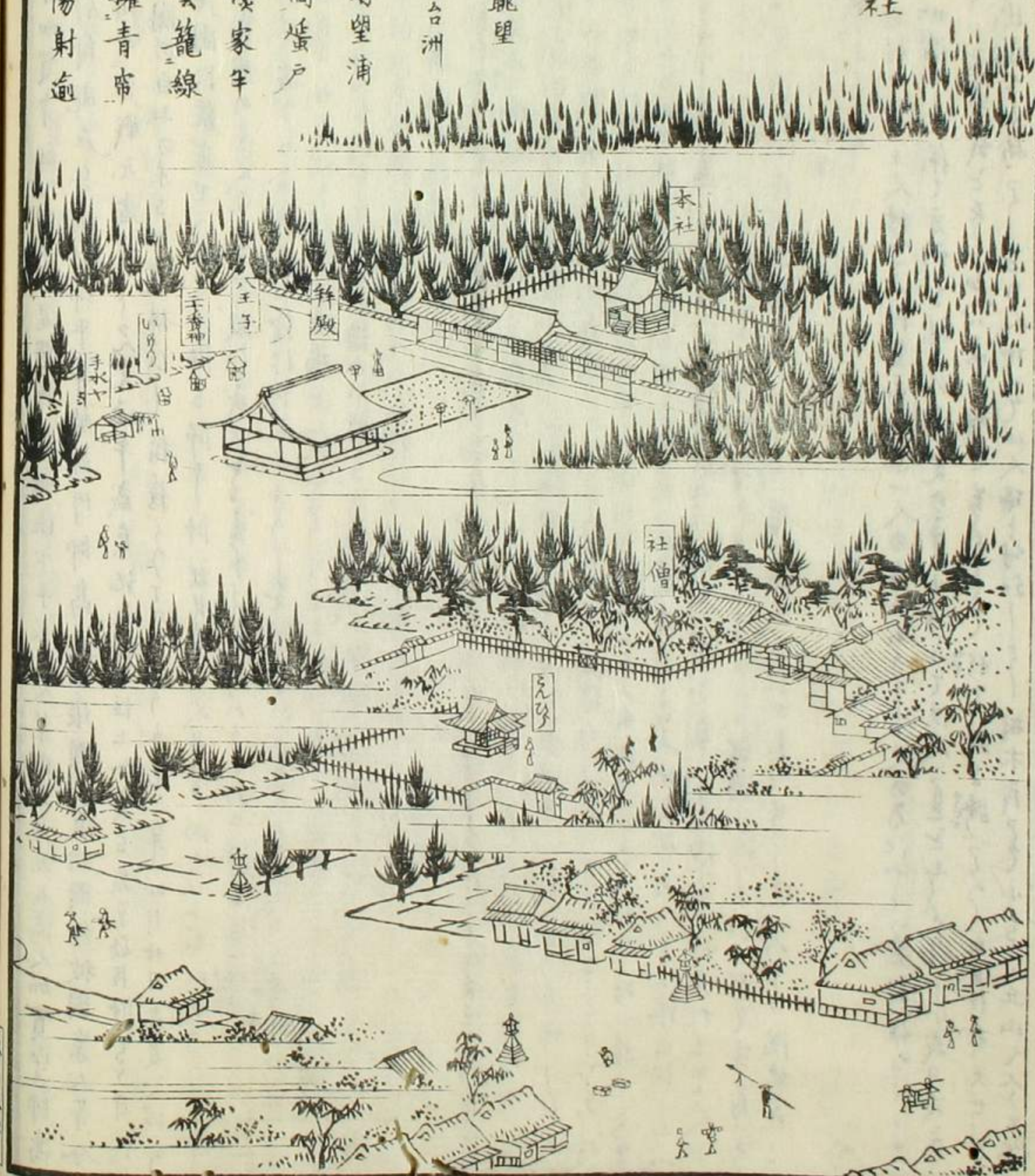


蛇毒神社

戸部村眺望

熊坂台洲

西遊紀行別録
道周試南望浦
口出閭閻蟹戸
多資驛漫家半
葉鹽秋雲籠線
岸寒樹擁青甍
漸見斜陽射逾



令氣色添

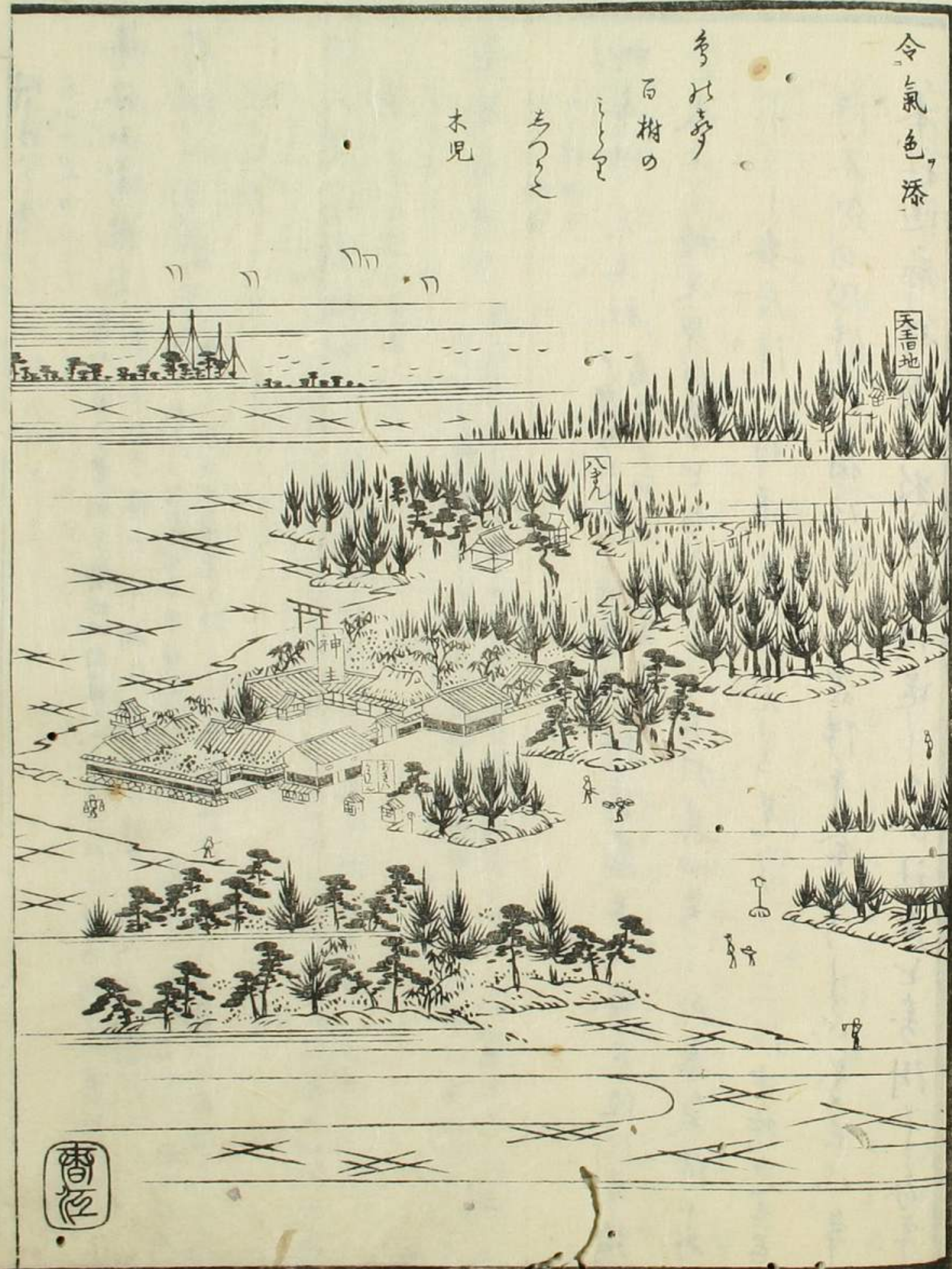
多木亭

百樹の

いづれ

あつて

木見



香

梅林山黄龍寺
目村にあり曹洞宗安田代田通寺末境内に天神の祠あり菅公
真年此寺像ありて世に名あり一壺に石古此碑文あり

眉間山白毫寺
目村にあり同宗同寺末境内に茂山と称するあり是む一木大杉
物の上流の所休息あり一地あり茂山と云ふ又依久信盛の若
内なり

佐久間信盛城址
目村にあり一り花人傳登の居城ありと云ふ信盛入城と東西
に其家老永田海兵衛屋を本寺と信盛を本寺と云ふ也

熊野權現社
目村にあり創建の年記詳し次述云由社に母之信盛此社中にありし
後永年の中より修治と云ふ一所の地ありて

蛇毒神天王社
戸部村にあり多神奉蓋
如意藏王陀羅尼經に牛頭
天王十種及身の号とありて一うられ其四号に蛇毒氣神とわ
ふ一安居院の神道集に記する是なり 三位中將忠吉君
清不例の所清乃清乃に忽清平をありて長八年
本社廻廊拜殿ホ教宇と修造しつゝ社産と奉附し毎年

六月十一日の祭記と云り終へて分に車樂とか壯麗他に六

○神寶 宝劍一振
相模守岩原政常作事長
十一年二月の所奉納
別當 海雲山天福
寺一町

愛知塚
目村にあり往昔者那の領之を知らず後身義成時商孫を助也
義清斯波家に奉りて世に因那の早治の庄小領を義清長祿三年已知
九月九日没を法号入道兼永則子の墳墓と云ふ是知塚と稱す義清は因那
望寺に大檀那なり義清の子孫由阿部家小領と云ふ是の所名を是に依て
今も親也知助と云ふと通稱
して送儀連綿

戸部新左衛門豊政
目村の人にて甲陽軍艦に信長と共に果して是非義元と
戦ふの事とありし者也其書少形の侍にて兼多二義元に分し尾尻と義元
の間に二六時中傷つたなりて尾尻の事と云ふは後身一書送儀信長は尾尻女
親の右手に被射なりは消息と云ふなり一書送儀信長は尾尻女
親に不送討つ時義元は同心の状思の事と云ふは織田上総介殿一戸部新左衛門
と上書と云ふは毎一と云ふと商人に出しは後身一書送儀信長は尾尻女
親に不送討つ時義元は同心の状思の事と云ふは織田上総介殿一戸部新左衛門
と云ふは毎一と云ふと商人に出しは後身一書送儀信長は尾尻女
親に不送討つ時義元は同心の状思の事と云ふは織田上総介殿一戸部新左衛門

星大明神社
星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

星彦庄本村にあり天降彗星神と云ふなり或は香香昔男神と云ふ
地に據かすに忽ち七里老と云ふ地中に據かすなり

笠寺縁起





笠寺

観音塚

仁王池

素堂

天台橋

観音塚

東光院

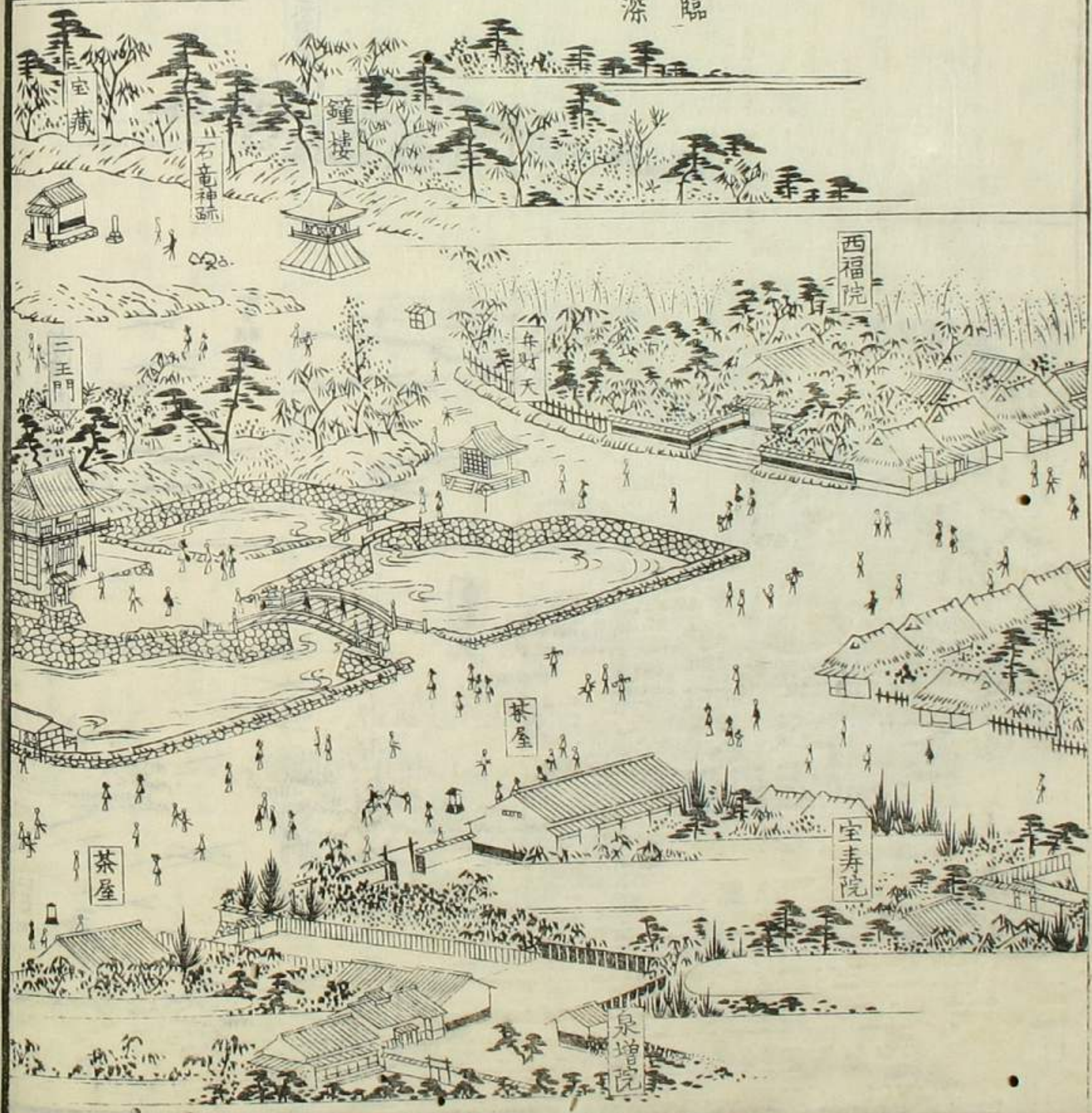
仁王池

津に紫昌の吳地とありきも多き寺の田島熱田の神社
 に混じりて沙門阿願及び念阿弥陀佛 宣揚門院の皇后に
 して嘉禎四年十二月との坊げなりと云ふの解状とあり
 一云 泰くも 勅裁と蒙り暦仁元年十二月巧教が在るに似
 せ堂宇と再興し社役院設と免許せり是後地荒れぬら
 教生禁断ホとも命せり其嘉禎の解文暦仁の院
 廳の清く文字教通今に況きて尚寺の吳宝と云
 新後のも載せり 希代の大縁起之 廿三日阿願
 本尊 十一面 鐘樓 清基をく四面に畜虎獅子と鑿りしに
 尾張國星前寺建長三年辛丑五月
 靈寶 檜笠 延喜年中 鶉生法螺 大塔宮 同傳來の書翰
 松虫の鈴 大定錢 四國石 紫磨黄金の如意輪觀音 弘法大師
 地蔵菩薩 弘法大師 出山釋迦如來 牧溪 不動明王 北典司 塔頭 昔
 十二院ありて今東光院泉塔院西福院 天神祠 東光院にありて
 慈雲院宝壽院西方院の云坊のこまなり 近江蒲生郡 菅田神社 神主左近將監
 半島島入道小雲の所ありてに流あり 近江蒲生郡 菅田神社 神主左近將監
 藤原安長曆應三年庚辰八月八日 應永八年辛巳八月十一日 在大風懸 高木枝 不思議

其二

新川

新川集
 高樓百尺縱登臨
 畫裡江山矚自深
 野水終藏蓮
 葉舫松風自
 和海潮音雲
 開紺殿迎紅
 旭雨霽蒼苔
 遍綠隳更見
 莊嚴踰異日
 天林遂不讓
 祇林



佐野紹益

尾張八景

開山塔
 中五郎
 林
 入おれり

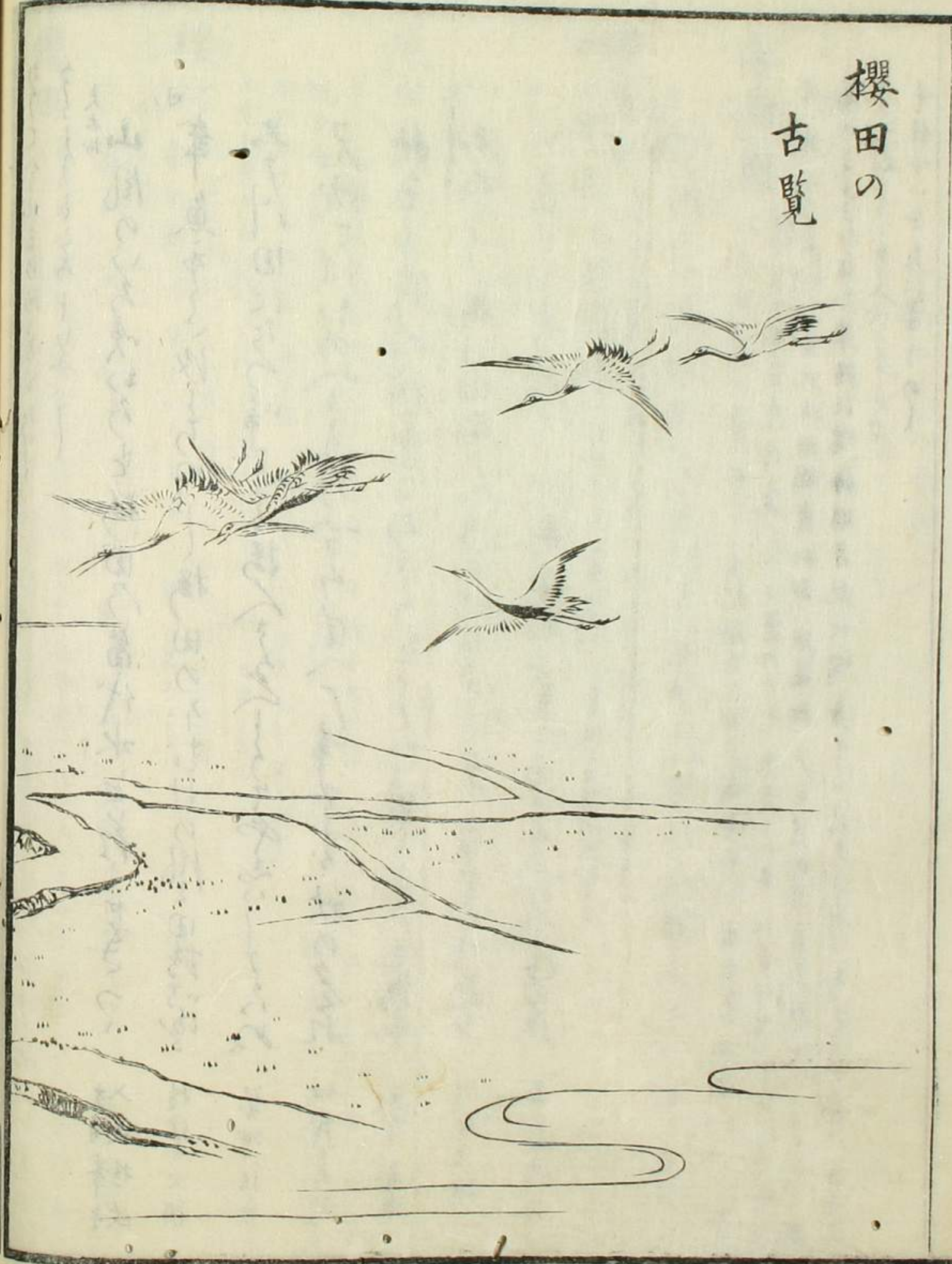
泊船集

あふり
 名存も
 くのり



櫻田の

古覽



高市連黒人

櫻田部鶴鳴渡年魚市方
鹽干二家良進鶴鳴渡

櫻人

佐久良比止曾乃不祢知
知女之末川太乎止未知
川久禮留美天加戸利古
牟也曾与也安須加戸利
古牟也曾与也古止於古
曾安須止毛以波女於知
加太爾須川末佐曹世那奈
禮波安須毛佐祢古之也
曾与也佐須毛佐祢古之
也曾与也



梅山東窓

寂室録 鳴海浦 西還潮 滿沙頭 行路難 會得截流那

寂室 幾人東去又過海門關 山崎閣齋

再遊紀行 矩塘長亭莫與傳家鄉 西望思悠、侯盡鈴韻風濤

東行雜詩 響薄暮天寒鳴海秋 平岩仙桂

水長身暗入岳陽樓 鳴海隨波遠浦舟 澹乾坤浮汎

經二過 鳴海西馬踏晚大霜潮 涸大津渚家臨江浪傍

晚潮白浪蹴汀沙 歸帆遠連夕日斜 百海高風鳴此

浦今知眺望在澳家 小野小町

古今六帖 後拾遺 增基法師

かいらきハ秋人志をこりしものさつげのうらみなり

烟花 左京かきさきりけり 世のつらき夢

千載 下社の園にまうりけり 尾流のまうりけり 野に拾古乃

あわらふいなるものさそふんり 一とあぬふひのうらみ

新古今 千五百番歌合に 前中絶之仲

小秋ありあはれしうらみ かくし月には海やあはれ 正三任季能

日 風ふけハまはるにうらみ けりおはれ波はうらみ 後永季能

日 浦人の目しゆはうらみに かくし神はうらみ 後徳院御歌

日 水渚常不勝しうらみ かくしうらみ 安嘉門院

後古今 かくしうらみ かくしうらみ 右衛門依

後拾遺 かくしうらみ かくしうらみ 貞昭法師

新後撰 かくしうらみ かくしうらみ 津守國平

玉葉 かくしうらみ かくしうらみ 大に忠成初臣

後撰 かくしうらみ かくしうらみ 后永雅朝歌

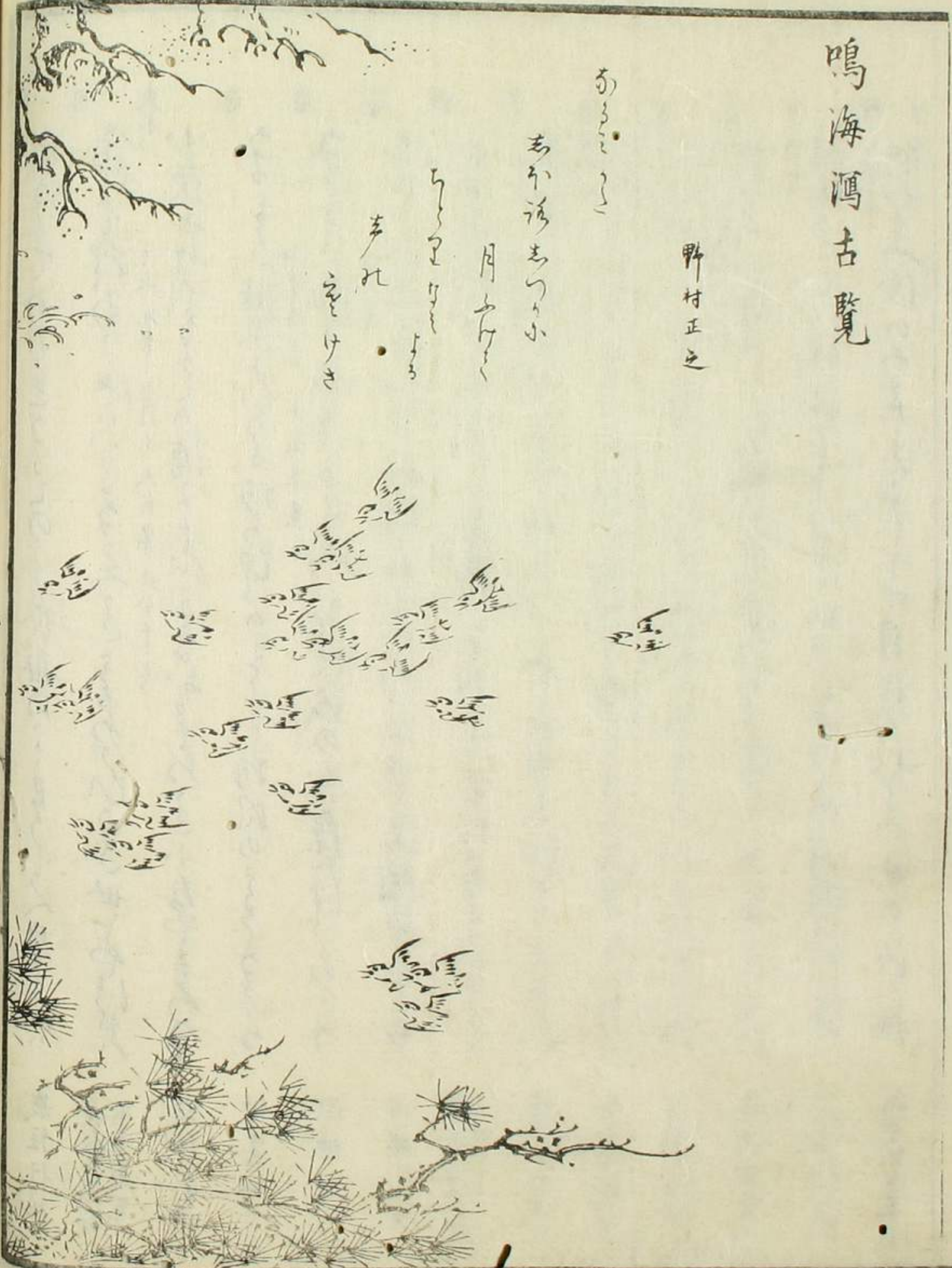
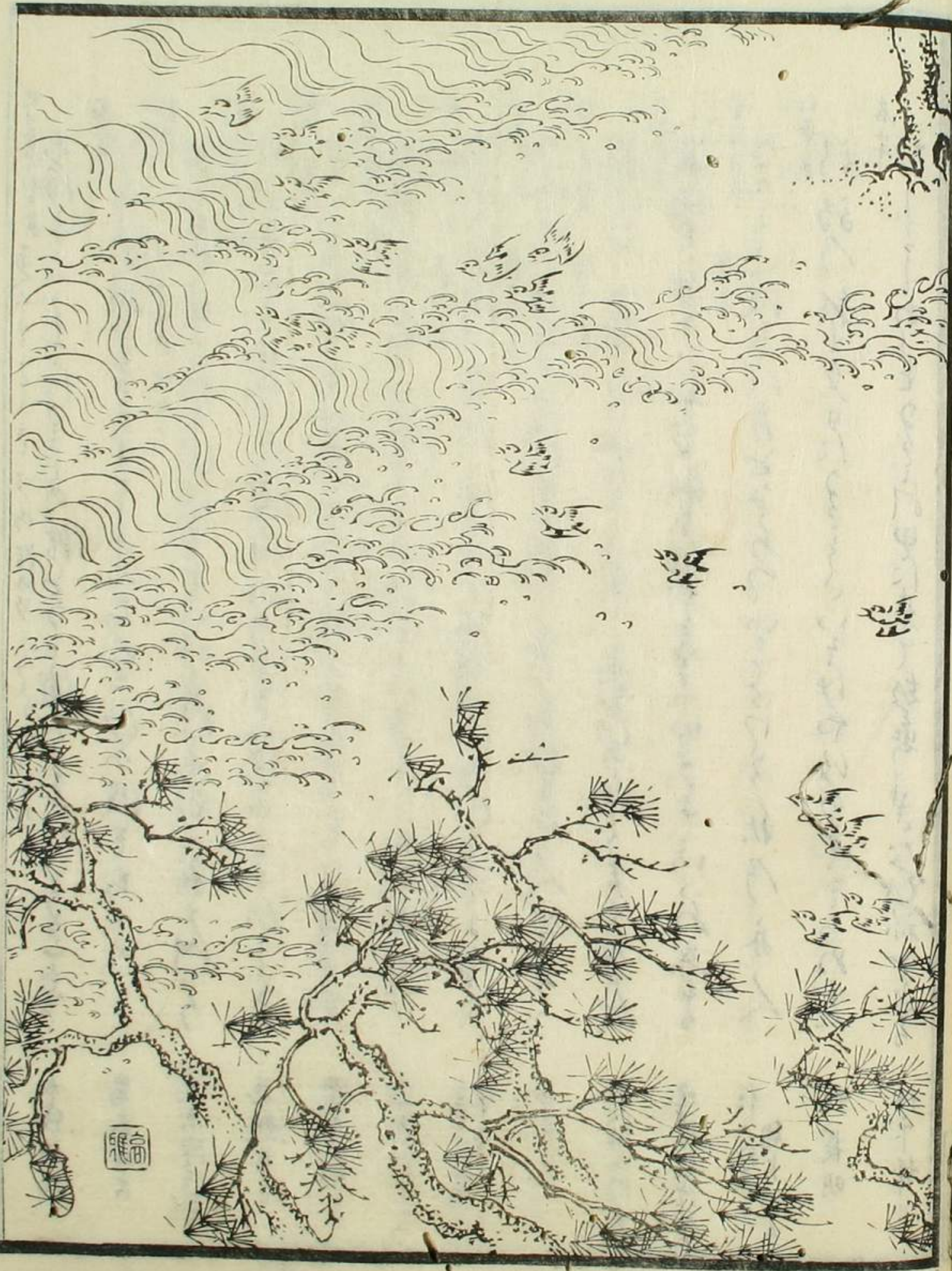
風物 かくしうらみ かくしうらみ 正三任経朝

新撰 かくしうらみ かくしうらみ 大に彦彦房

日 かくしうらみ かくしうらみ 持中絶之為明

日 かくしうらみ かくしうらみ 法皇御製

日 かくしうらみ かくしうらみ 宗祐法師



鳴海酒古覽

野村正之

あまのついで

あまのついで

月十七日

あまのついで

あまのついで

あまのついで

英和歌集

ささきりしていくしるくつるさし心きこぬ友ふるう郡

大納言先廣

老櫻集

かきまや月さるるのうらみ霞やみ雨くつきさる

内大臣通茂

新撰林和歌集 櫻集

秋あさく秋さるるの霞楸波のまふくちをれてもゆく

良恕

仙院春日法善想神法樂和歌

たのまの 露はけふさるるみくさるるそのみもをほせや

左中将為綱

名所和歌

のまを 秋もかくれくつるさるるかきせの木のま乃下針

檢大納言為久

廿一代集より 允最勝四天王院障子和歌連保首夫木抄より秋合千首百首新法楽記
集のうた教多きはあらく是を省き馬一人一首と行るり又と世地人のうた教もりとは
お多うとておまへ
これと裁せし

ささきりして

尾法のおまの浦とてたたりかかみちらちて今秋若くむもちけんし
ちりまふはらとてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

東園和歌

のまをとてささきりしてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

ささきりしてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

ささきりしてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

ささきりしてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

ささきりしてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

ささきりしてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

写馬土抄

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

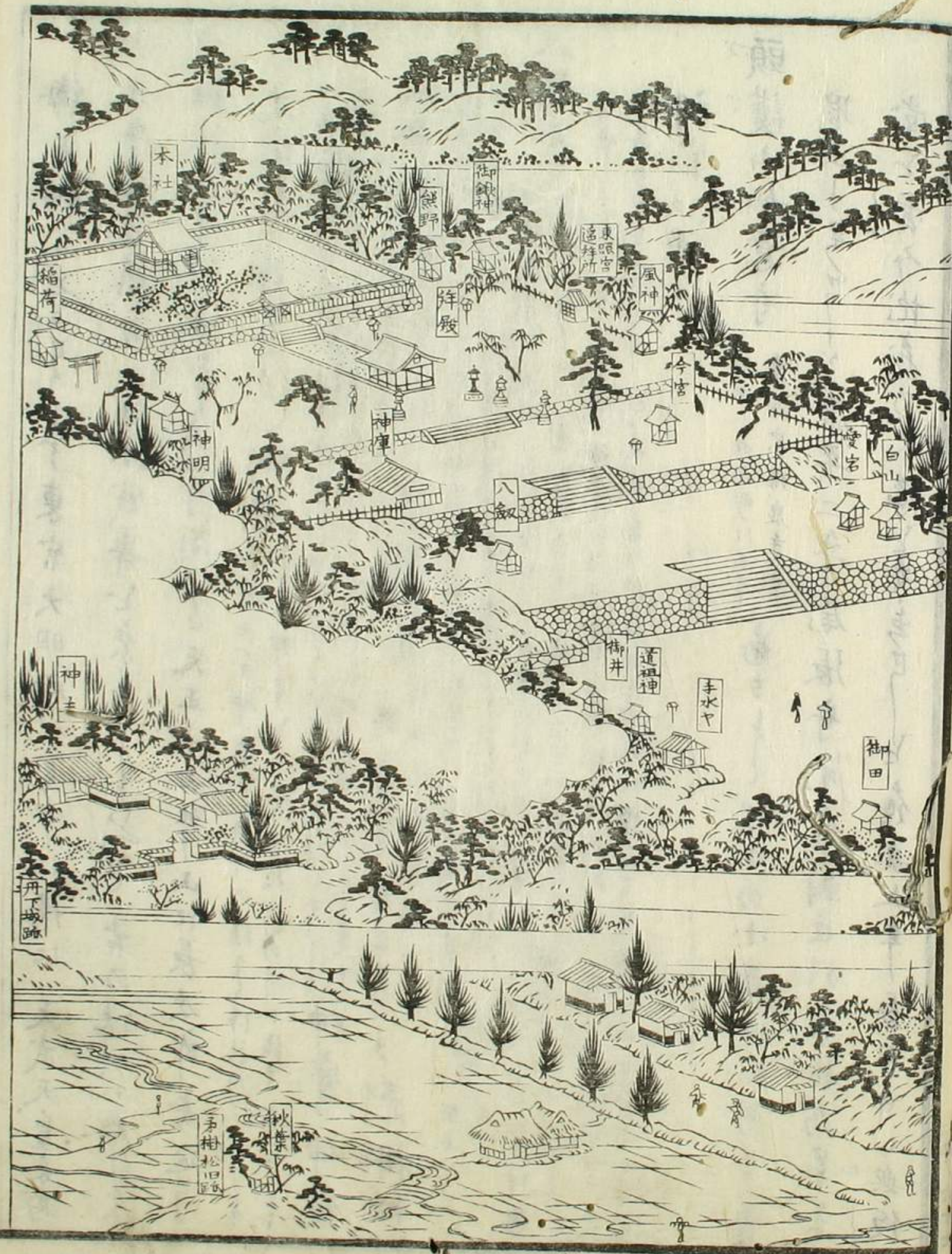
おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

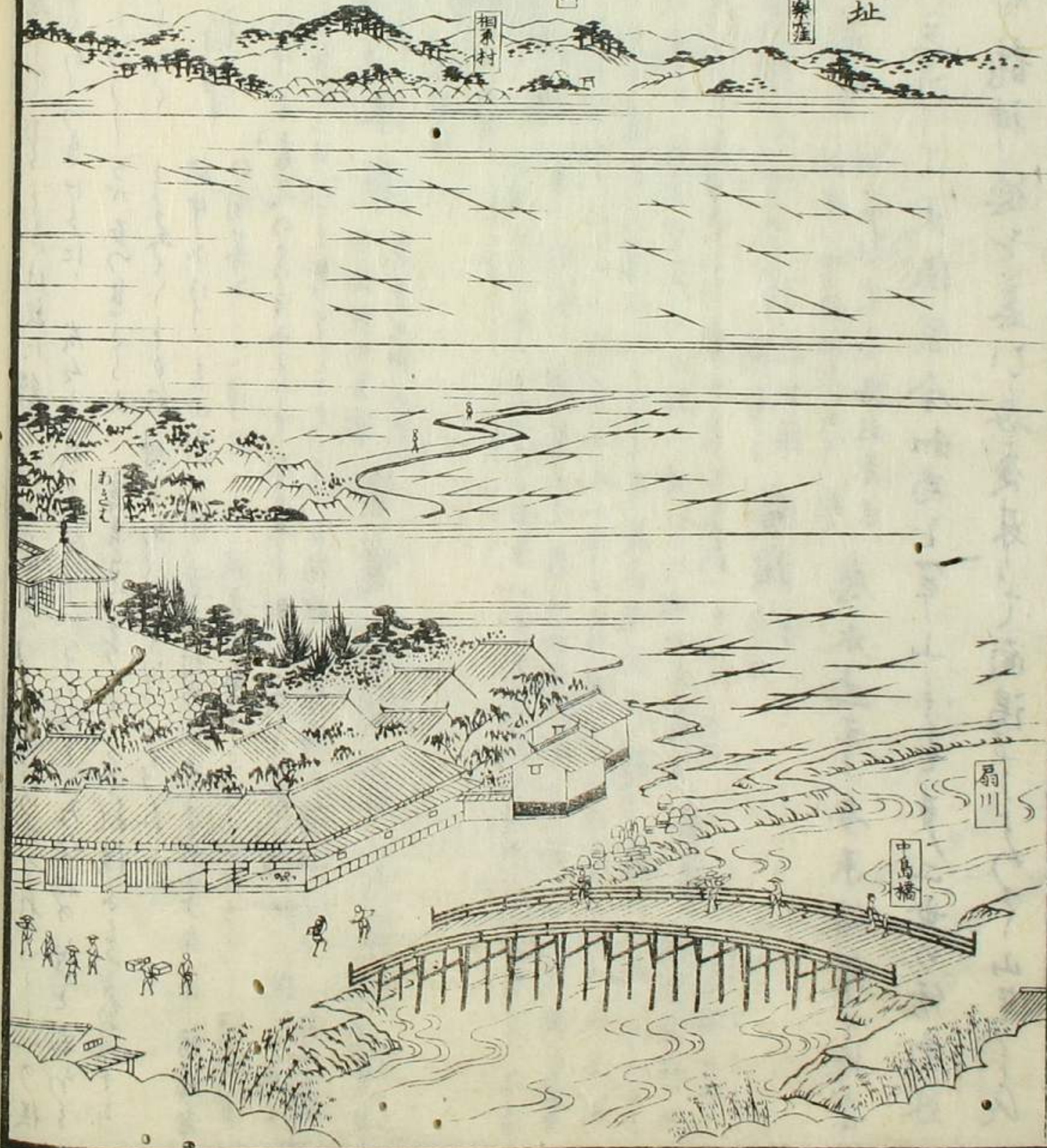
おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして

おのの浦とてささきりしてささきりしてささきりしてささきりして



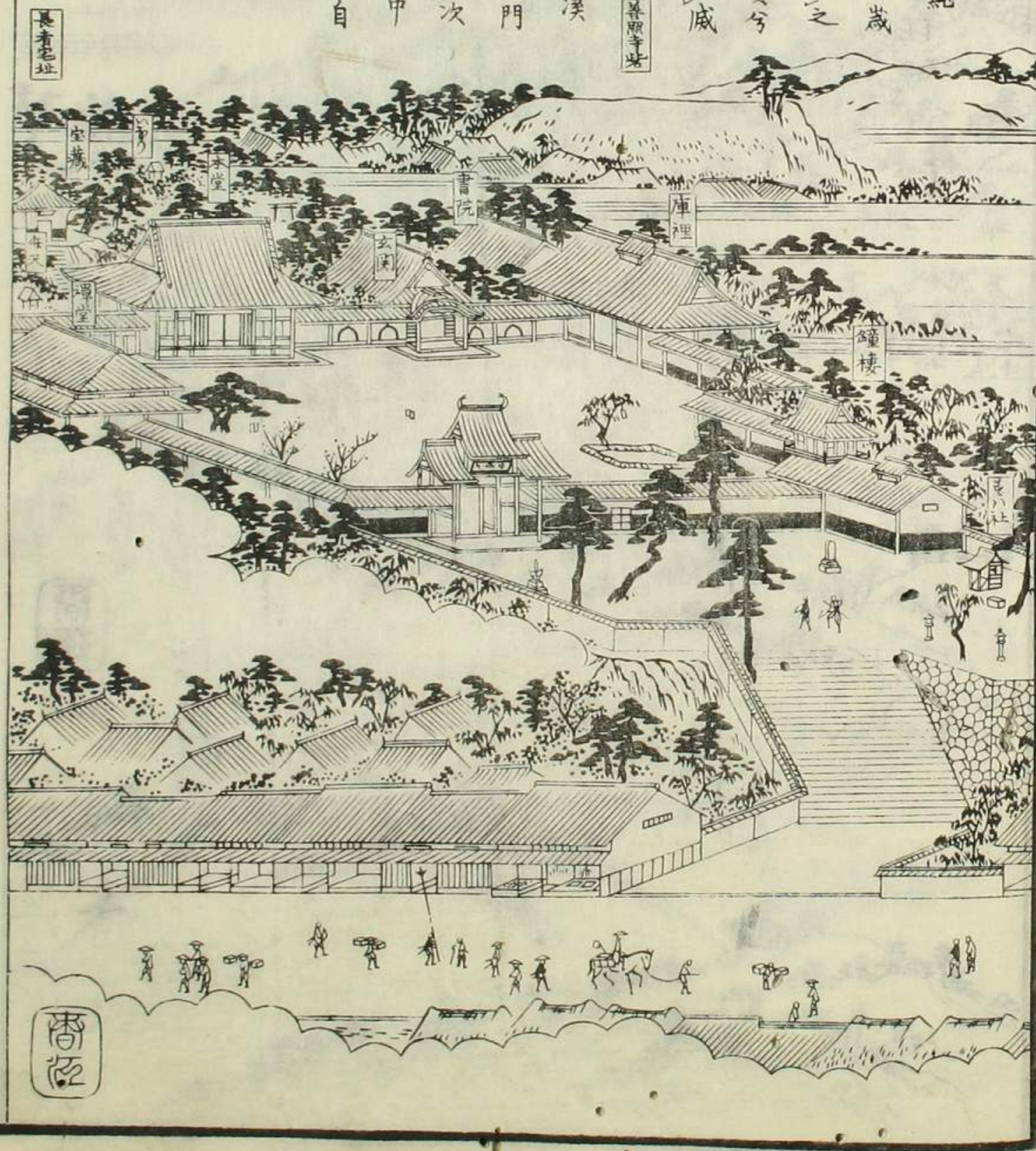
瑞泉寺
成海長者宅址
善照寺岩

淺井園南
紺宇經年烟
樹深秋未葉
落無由尋上
方應有殘僧
在莫入禪龕
驚悟心



僧蓮純
混、瑞泉千歲
不絕汲之浴之
心垢頓潔貪兮
不生法兮不威

石川黃溪
石壇疊、寺門
懸佛殿僧房次
第連知得山中
無俗淙蟠龍自
古此標禪



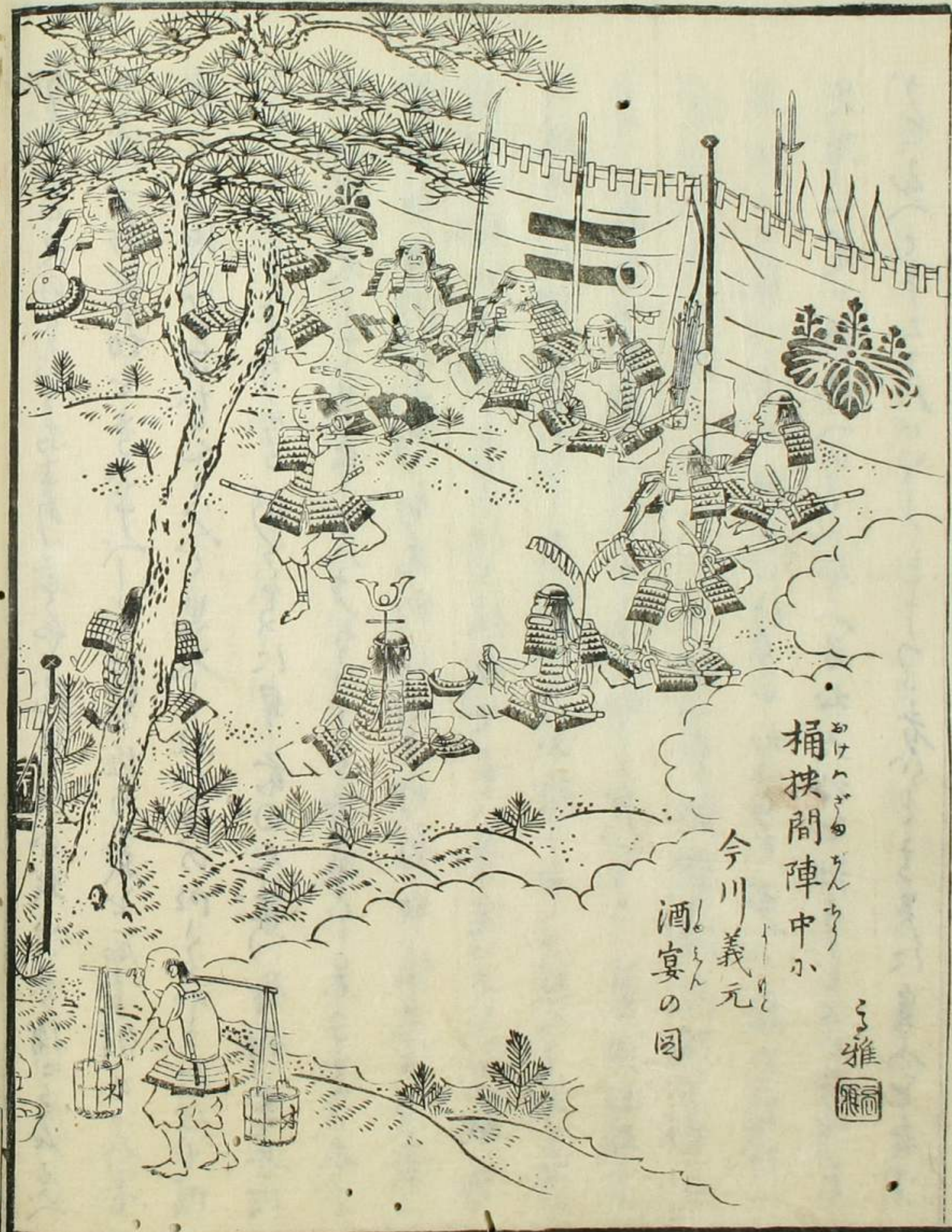
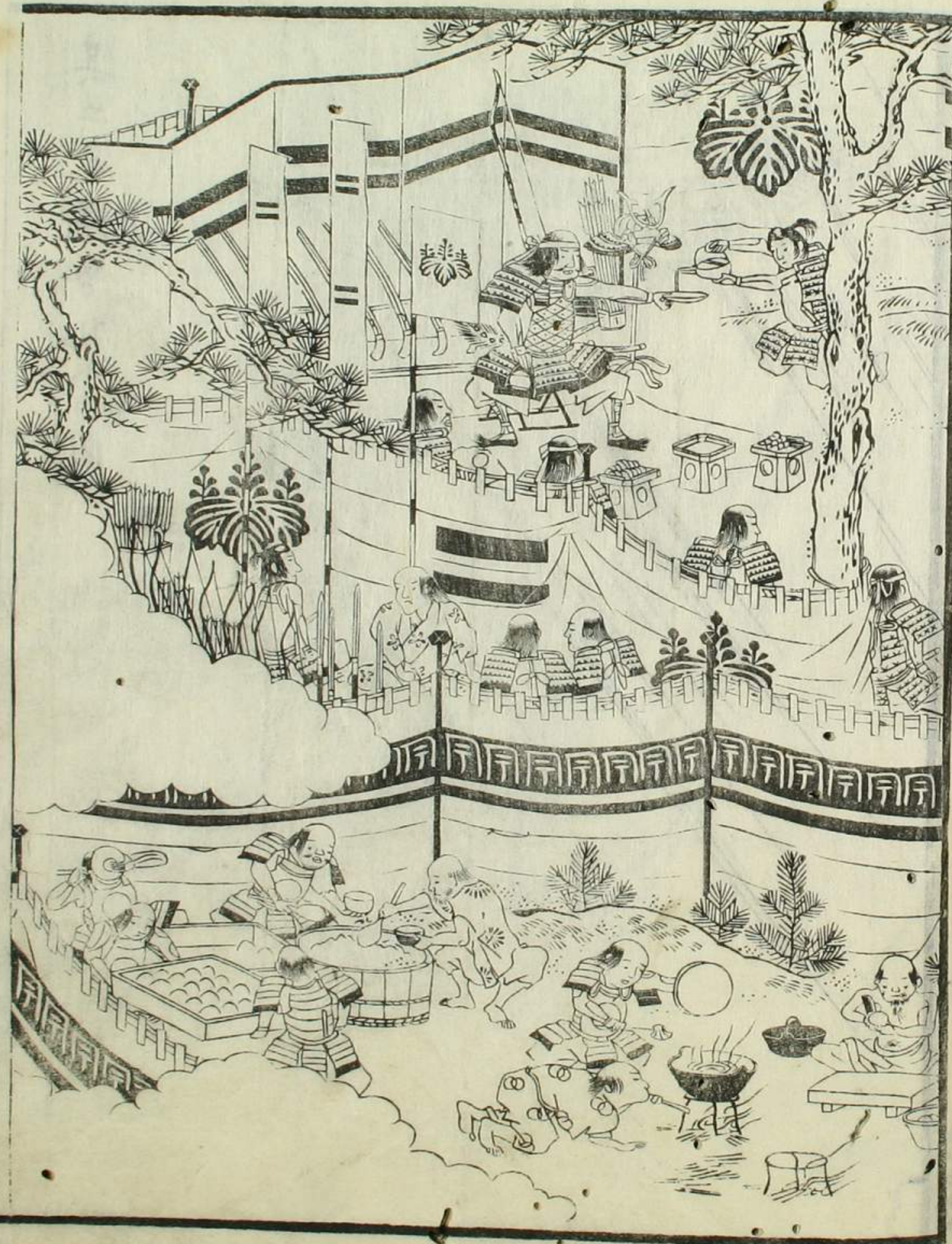
の経管より山中に十四景有りて四時れありあそびの頗る幽波
らるゝ委しきも人の蕉中和尚の書より小山園記小瀬ありてこゝ小省
きぬあそびも十四景の標目ハ園上小籠てて大槪とらんには小省
写河下に氏別小千代倉と家号とありて先如是標母龜世三世にも芭蕉の門人より
翁東西遊歴の時ハ此來とて必以家に寄寓ありて師弟の誼もあつたに依りてハ翁の
歎及び早禱の吟此自画買て化志流も教多ありて條の秀才を代の雅客詞林の教
章と家に輯むされハ在土の文人教士一見とをひててにいつるハ一英に翁小由緒
あり名家と稱すべし又龍燈臺とて存するハ翁に就てもその行ハ世に
名なき奇品なり又其中和尚の龍燈臺小千代倉一はこゝ小畧一也

桶狭間古戰場

有村と為合村の街邊あり一少余南の方北平山小古松ありて
翁本の大守佐々木の如に敗死せり旧蹟之有和八年の老河内の下に氏以而にセフの標石と
是て義元及び信長下ハ血戦勇死の地と存人の故より又文化已己の兼南府の儒官泰島
碑文と撰する石に勒し戰場の中央に是と云ふなり又文未
録して以て新説小傳入土人の地と云ふて形殊るも稱す

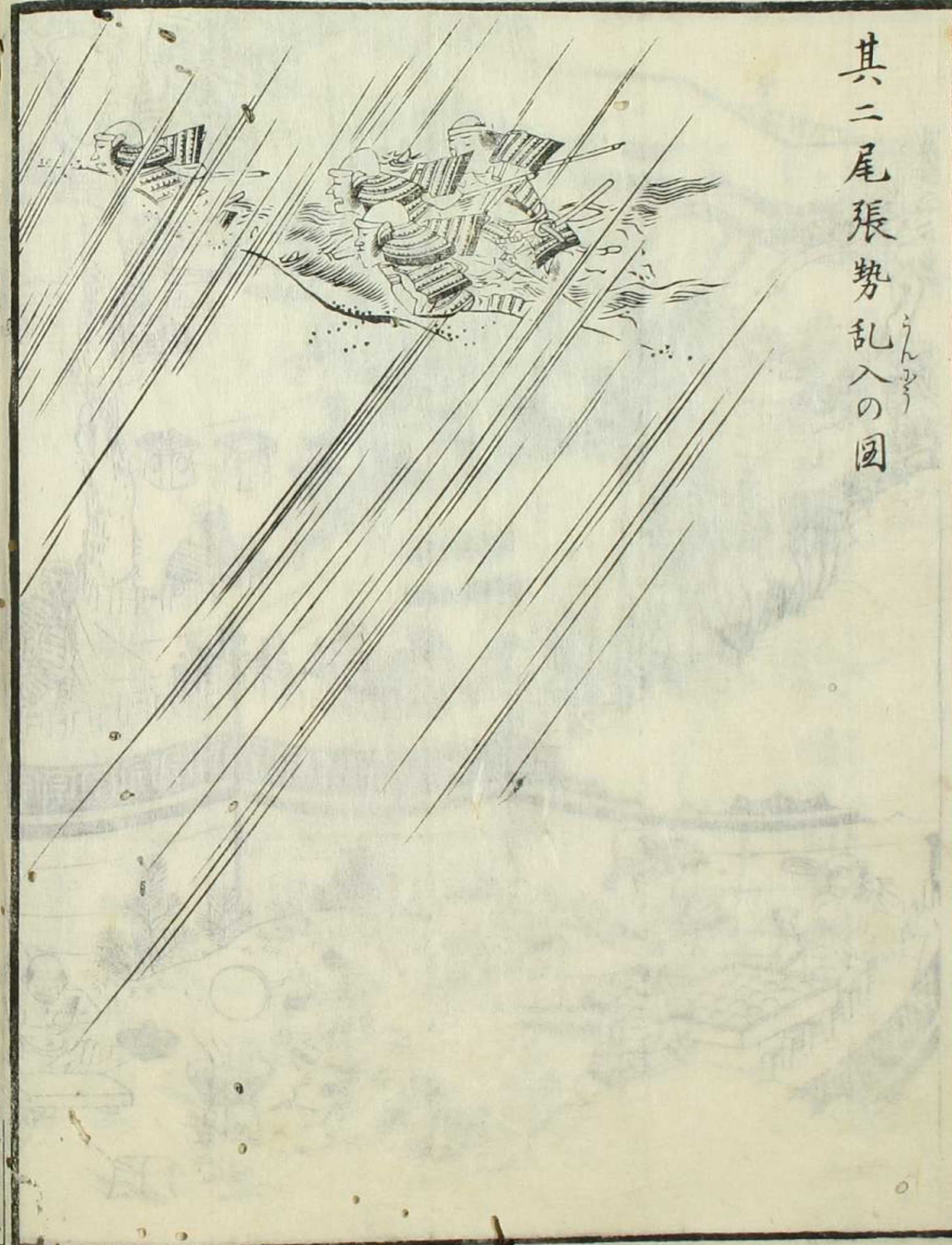
大軍と引率し永祿三年五月十七日南郡皆懸に到着翌十八日
の夜大軍の糧へ兵糧と入上翌十九日ハ龍津丸根の砦と攻め
必き評定の自信長公少一石一十五日僅三子小瀬に軍兵と
率して未だ小瀬須とすまらばや契田の大宮へと東活ありて

誓とら致文とをらして神明の威感著きまごのるは契田の
糸にともる増と奉とてこゝに畧しぬ 信長と契田とサをうり
我元戦死するの事其ハ信
長記の全文と畧抄 角て信長卿多むを
白誓二御旗の先
少なき飛けはとバ泳きのこゝ思名使のハハ好長瀬
馬の通ひも有りて是れは是ちの東より細道と経る 信長に今川我
元我赤尾と畧
せり因蔵四信とる契田の宮に治し夫は春波の如く龍潭と修く井戸田に山崎
より此處にうら古河はとててち子が揚上陣とていへり桶狭間は御旗入て勝利
と云ふいへりこゝハ契田 若くは勢とも相具善照寺の東山の美
田名に傳つた也 少く勢と掲けし
三子計小尾布と勢ハ五千餘騎と軍
の河とん教とてこゝに少なき奉素の自より皆心安く思
とて兵の勇氣と励しあはれ半人正千秋四郎ハ御旗の
旗と掲げけんといへり義元が先陣の勢山原に引くは
面も振らど懸入る北より南西より東懸破り懸通り切り切られ
つ散る小我けが遠小二人なり討しければ是と知して岩室



桶狭間陣中小
 今川義元
 酒宴の図

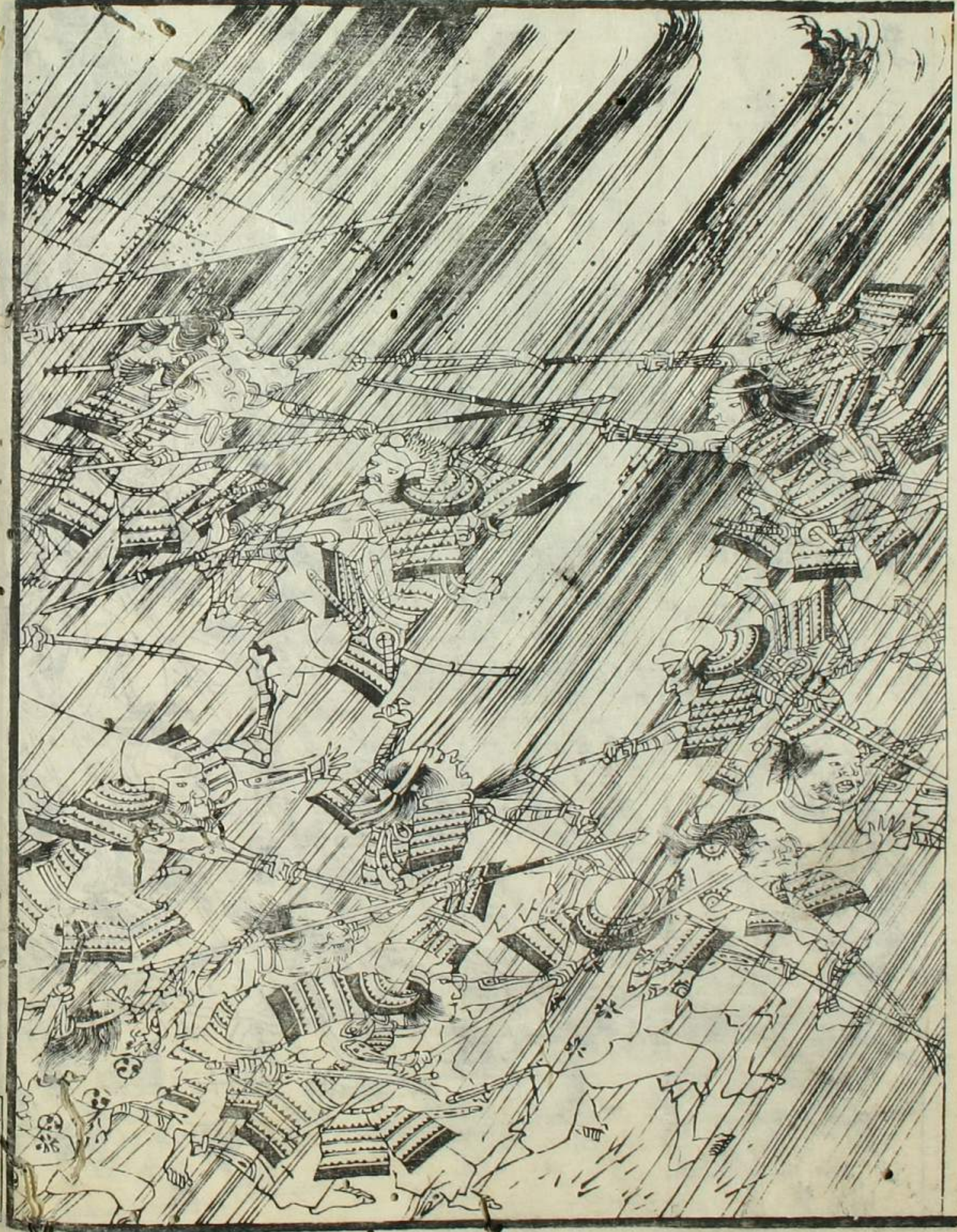
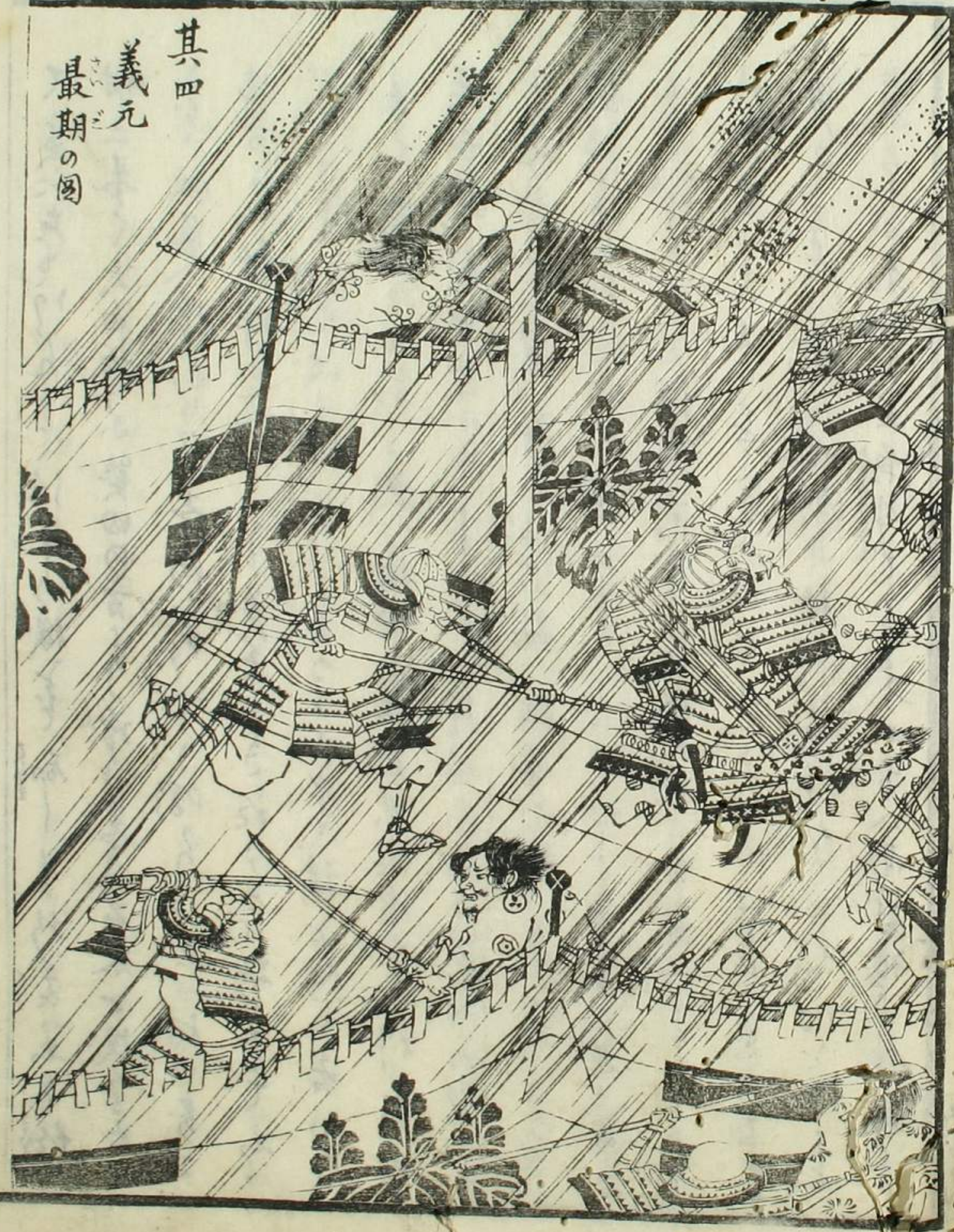
雅



其二尾張勢乱入の圖

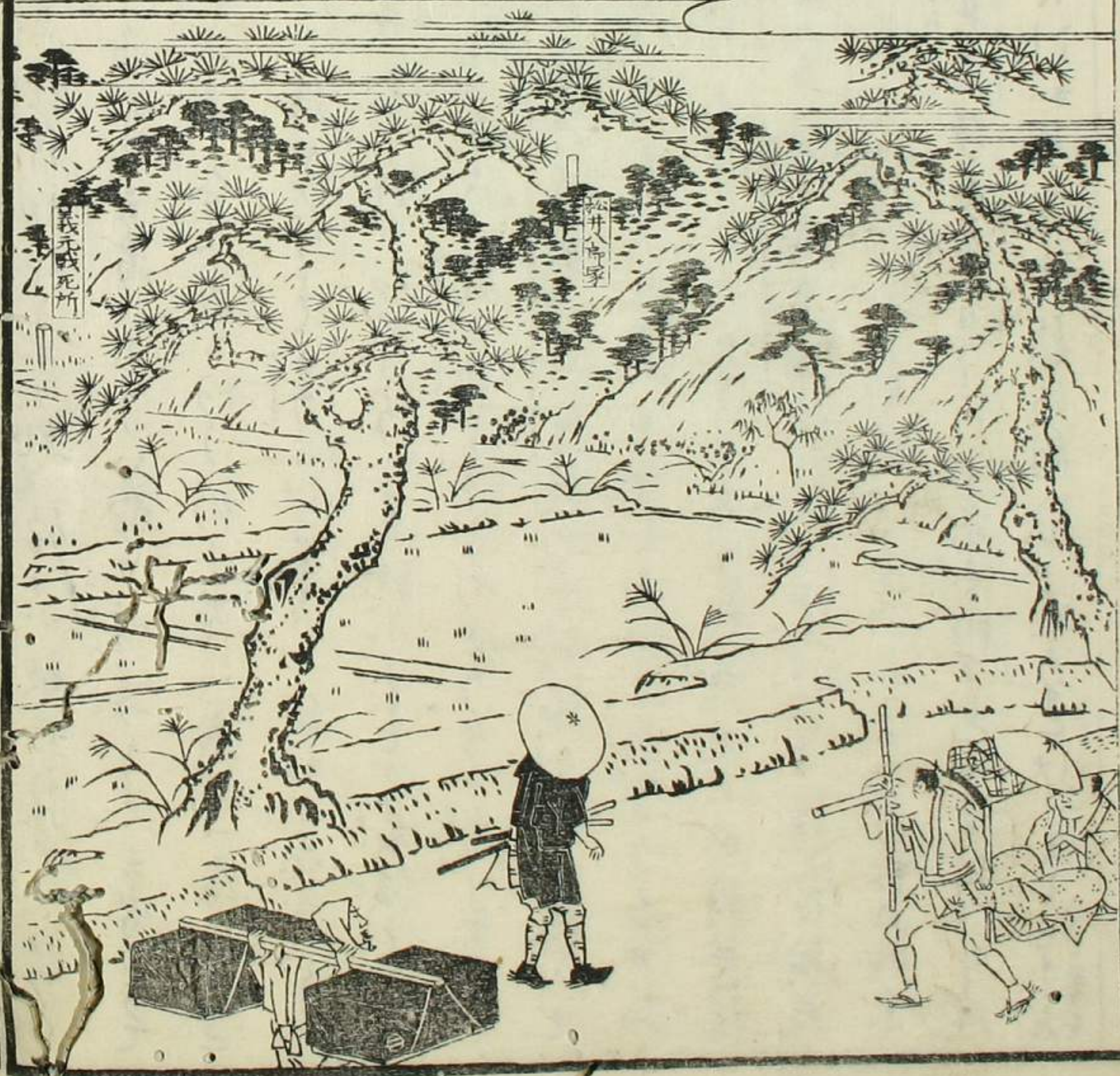


其四
義元
最期の圖



おけとす
桶狭間古戦場

陸虎
初と前法郎大補
義元帥臣四万軍と
率い至三と略し永
祿三年庚申五月十
八日本邦首領の里
より大軍にあり十九
日の朝以而に身ひ終
いに平場おふ三子
にならざる勢と大
子分振り二子小分
ち一子ハ強まれば
小行りて自し捕へ
まゝ来りて田樂が
空に陣と攻急に
勢をひしと後を不
意に破れんと大
る疾風の中敵味
方ともなず津又



五十六

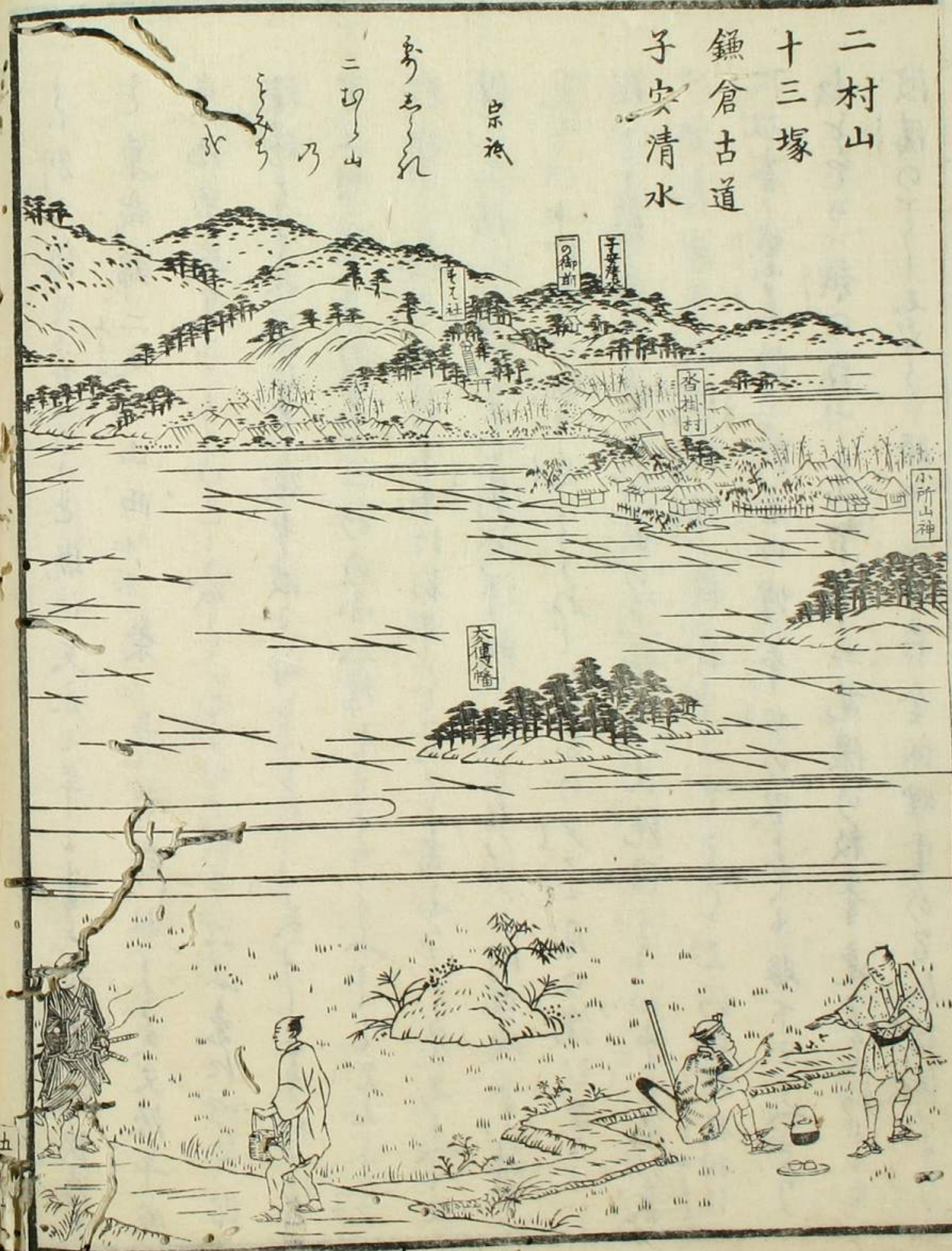
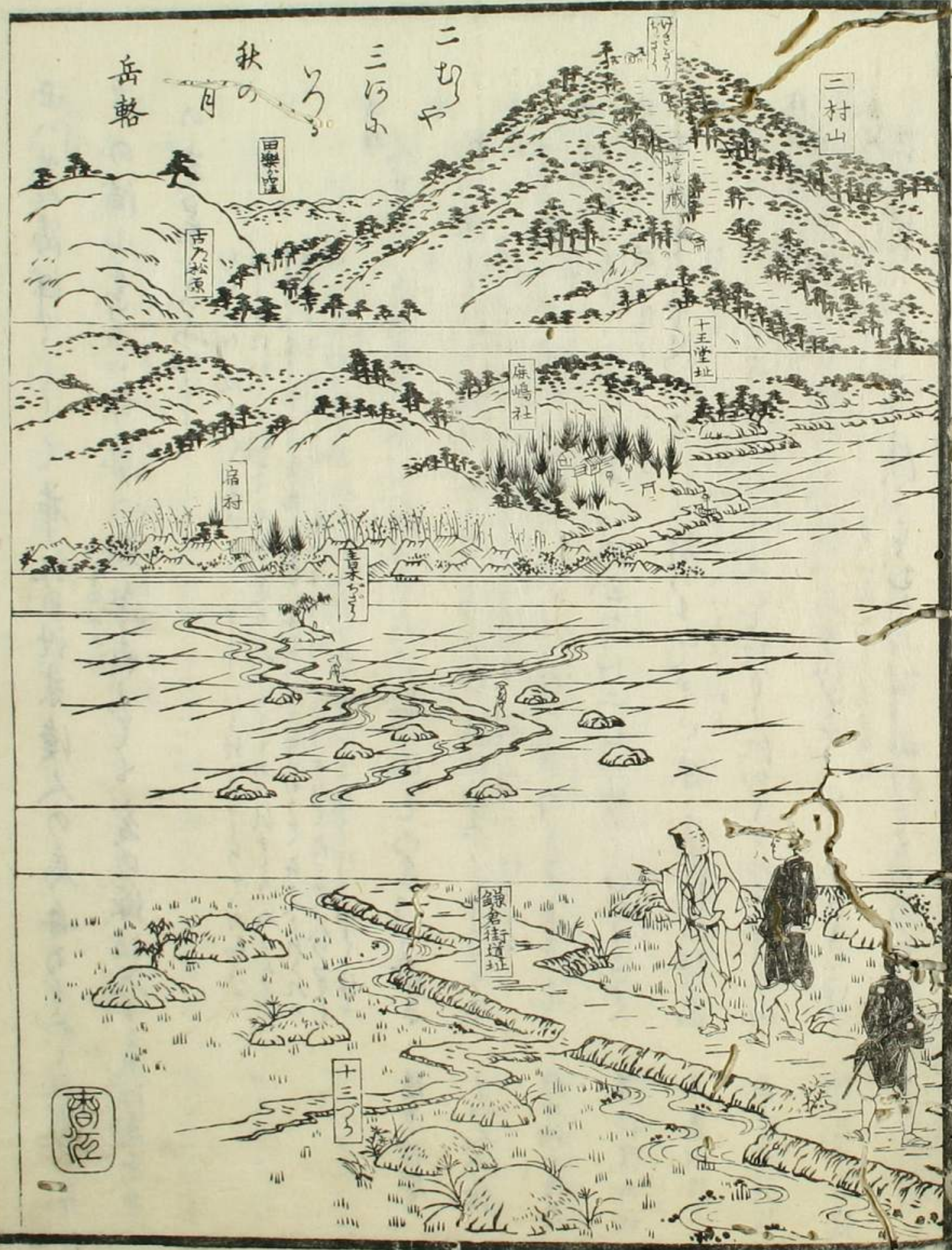
乱は擡けて征馬跡
斷せりと名に後敵
平吉毛利助
入我記の所首と兼
して東にまら尾兵
追討て首とらる可
二子ある余級を中
名は將士六十余人
とす今七塚の
とど年方しれは
主姓名とすは呼
信幸坊とて江山
あり仕事た
てくお承り野史
これとす口碑里に
傳つる也



香

おけとす
桶狭間古戦場

香



雪の二の山 前内大臣

二の山の雪の山 小侍従

三の山の雪の山 為氏

山松の木も三具吉の山 道磨

雪の山 破見

雪の山 川合一叢

雪の山 坊基法師

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

雪の山 雪の山 雪の山

子安清水

下ろ根一寺前社のまにけり 養婦の水と
のり必安産すといひけり

法佛ハ大同二年

士朗

山嶺石地藏

二村山の幸に
小堂と安ま

此地花の上ハ折とく 下半身の妙はう

背に大同二の文字と彫ける古像とて

花頂に加敷油衣切地花とて

背に古来佛像大破建之延

宝七年の文字見えたり

子安清水

下ろ根一寺前社のまにけり 養婦の水と
のり必安産すといひけり

法佛ハ大同二年

士朗

山嶺石地藏

二村山の幸に
小堂と安ま

此地花の上ハ折とく 下半身の妙はう

背に大同二の文字と彫ける古像とて

花頂に加敷油衣切地花とて

背に古来佛像大破建之延

宝七年の文字見えたり

